

# Netra Server X3-2 (旧 Sun Netra X4270 M3 サーバー)

設置ガイド



Part No: E35598-01  
2013年4月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

|                            |    |
|----------------------------|----|
| このドキュメントの使用法 .....         | 5  |
| プロダクトノート .....             | 5  |
| 関連ドキュメント .....             | 5  |
| フィードバック .....              | 6  |
| サポートとアクセシビリティ .....        | 6  |
| サーバーの概要 .....              | 7  |
| 関連情報 .....                 | 7  |
| 設置タスクの概要 .....             | 7  |
| サーバーの概要 .....              | 8  |
| フロントパネルのコンポーネント (設置) ..... | 10 |
| 背面パネルのコンポーネント (設置) .....   | 13 |
| サーバーと設置場所の仕様の確認 .....      | 15 |
| 関連情報 .....                 | 15 |
| 物理仕様 .....                 | 15 |
| 保守用最小スペース .....            | 16 |
| AC および DC 電源仕様 .....       | 16 |
| 入力電力の情報 .....              | 17 |
| 過電流保護の要件 .....             | 18 |
| DC 電源、電源接続、およびアース要件 .....  | 19 |
| 環境要件 .....                 | 20 |
| 音響ノイズの放出 .....             | 21 |
| 通気のスペース .....              | 21 |
| 設置の準備 .....                | 23 |
| 関連情報 .....                 | 23 |
| 出荷キットの内容一覧 .....           | 23 |
| 取り扱い上の注意 .....             | 24 |
| 静電気放電に関する注意事項 .....        | 25 |
| 設置に必要な工具 .....             | 25 |

---

|                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| オプションコンポーネント .....                    | 26  |
| ラックに関する注意事項 .....                     | 27  |
| ラックを固定する .....                        | 28  |
| サーバーの4ポストラックへの設置 .....                | 29  |
| 関連情報 .....                            | 29  |
| 標準19インチハードマウントキット(4ポストラック)の取り付け ..... | 30  |
| 19インチスライドレールキット(4ポストラック)の取り付け .....   | 35  |
| 600 mmハードマウントキット(4ポストラック)の取り付け .....  | 44  |
| サーバーの2ポストラックへの設置 .....                | 55  |
| 関連情報 .....                            | 55  |
| 19インチハードマウントキット(2ポストラック)の取り付け .....   | 56  |
| 19インチスライドレールキット(2ポストラック)の取り付け .....   | 64  |
| 23インチハードマウントキット(2ポストラック)の取り付け .....   | 76  |
| ケーブルの接続 .....                         | 87  |
| 関連情報 .....                            | 87  |
| データケーブルおよび管理ケーブルの接続 .....             | 87  |
| ポートの識別 .....                          | 92  |
| サーバーへのはじめての電源投入 .....                 | 101 |
| 関連情報 .....                            | 101 |
| AC電源コードの接続 .....                      | 101 |
| DC電源コードの組み立てとDC電源の供給 .....            | 103 |
| ホストへのはじめての電源投入 .....                  | 115 |
| <br>                                  |     |
| 用語集 .....                             | 117 |
| <br>                                  |     |
| 索引 .....                              | 125 |

# このドキュメントの使用方法

---

このドキュメントでは、Oracle の Netra Server X3-2 (旧 Sun Netra X4270 M3 サーバー) をラックに取り付ける方法を説明します。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ向けに記述されています。

次のトピックで構成されています:

- 5 ページの「プロダクトノート」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「フィードバック」
- 6 ページの「サポートとアクセシビリティ」

## プロダクトノート

この製品に関する最新の情報と既知の問題については、次の場所にあるプロダクトノートを参照してください:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraServerX3-2>

## 関連ドキュメント

---

| ドキュメント  | リンク   |
|---|---|
| すべての Oracle 製品  | <a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>   |
| Netra Server X3-2   | <a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraServerX3-2">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraServerX3-2</a>           |
| Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) 3.1<br>ソフトウェアライブラリ | <a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31</a>                             |
| Oracle Solaris OS およびシステムソフトウェアライブラリ                                  | <a href="http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw">http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw</a> |

---

## フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

## サポートとアクセシビリティ

My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス

<http://support.oracle.com>

聴覚障害の方へ:

<http://www.oracle.com/accessibility/support.html>

アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて

<http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html>

---

# サーバーの概要

---

以下の各トピックでは、サーバー機能の設置の概要と情報を提供します。

- 7 ページの「[設置タスクの概要](#)」
- 8 ページの「[サーバーの概要](#)」
- 10 ページの「[フロントパネルのコンポーネント \(設置\)](#)」
- 13 ページの「[背面パネルのコンポーネント \(設置\)](#)」

## 関連情報

- 15 ページの「[サーバーと設置場所の仕様の確認](#)」
- 23 ページの「[設置の準備](#)」
- 29 ページの「[サーバーの4 ポストラックへの設置](#)」
- 55 ページの「[サーバーの2 ポストラックへの設置](#)」
- 87 ページの「[ケーブルの接続](#)」
- 101 ページの「[サーバーへのはじめての電源投入](#)」

## 設置タスクの概要

次のタスクを実行して、サーバーの設置と構成を行います。

| 手順 | 説明                                 | リンク   |
|----|------------------------------------|---|
| 1. | 「プロダクトノート」でサーバーの最新の情報について確認します。    | <a href="#">Netra Server X3-2 (旧 Sun Netra X4270 M3 サーバー) プロダクトノート</a>  |
| 2. | サーバーの機能を確認して、サーバーコンポーネントについて理解します。 | <a href="#">8 ページの「サーバーの概要」</a><br><a href="#">10 ページの「フロントパネルのコンポーネント (設置)」</a><br><a href="#">13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」</a> |
| 3. | サーバーの仕様および設置場所の要件を確認します。           | <a href="#">15 ページの「サーバーと設置場所の仕様の確認」</a>  |
| 4. | 注文したすべてのアイテムを受け取ったことを確認します。        | <a href="#">23 ページの「出荷キットの内容一覧」</a>   |

| 手順  | 説明  | リンク  |
|-----|---|--|
| 5.  | 安全性および静電放電に関する注意事項を確認します。                     | <a href="#">24 ページの「取り扱い上の注意」</a><br><a href="#">25 ページの「静電気放電に関する注意事項」</a>              |
| 6.  | 必要な工具類を用意します。                                 | <a href="#">25 ページの「設置に必要な工具」</a>  |
| 7.  | 注文したオプションのコンポーネントを設置します。                      | <a href="#">26 ページの「オプションコンポーネント」</a>  |
| 8.  | ラックに関する注意事項を確認してください。                         | <a href="#">27 ページの「ラックに関する注意事項」</a>   |
| 9.  | 4 ポストラックまたは2 ポストラックにサーバーを取り付けます。              | <a href="#">29 ページの「サーバーの4 ポストラックへの設置」</a><br><a href="#">55 ページの「サーバーの2 ポストラックへの設置」</a> |
| 10. | 配線の要件とポートの情報を確認します。データケーブルと管理ケーブルをサーバーに接続します。 | <a href="#">87 ページの「ケーブルの接続」</a>   |
| 11. | 電源コードを準備し、電源を入れ、サーバーを初めて起動します。                | <a href="#">101 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」</a>  |

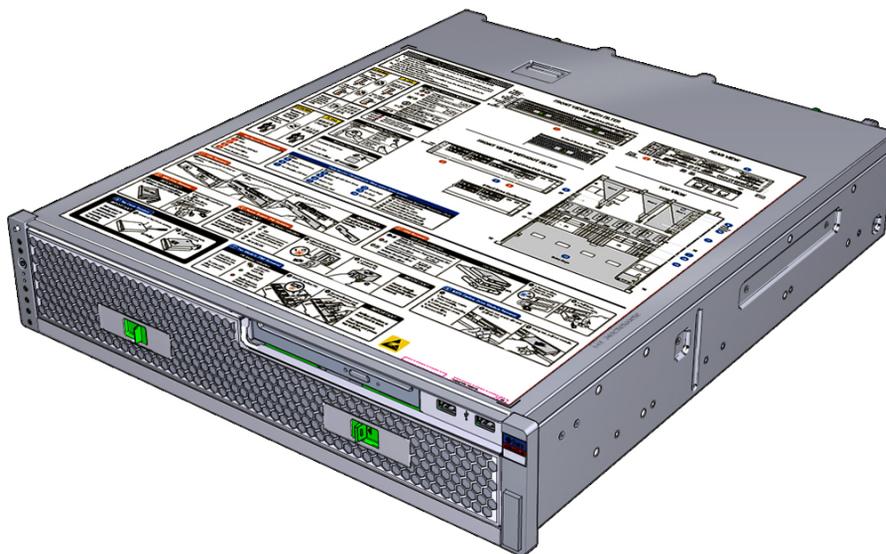
---

### 関連情報

- [8 ページの「サーバーの概要」](#)
- [10 ページの「フロントパネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- 『サーバーサービス』

## サーバーの概要

サーバーはキャリアグレード、NEBS 認定、2U サーバーです。



| コンポーネント   | 説明   |
|-----------|--|
| CPU       | Intel E5-2658、2.1 Ghz、8 コア、95 W プロセッサ 2 つ。   |
| メモリー      | 8 GB および 16 GB DIMM 容量をサポートする DDR3 DIMM スロット 16 個 (16 GB DIMM を使用すると最大 256 GB)。<br><br>注-取り付けられたメモリの容量は、注文の内容によって変わります。  |
| ストレージ     | モデルに応じて、次のいずれかの構成になります： <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2.5 インチ、ホットスワップ可能 SAS ドライブ 6 台まで、および SATA DVD-RW 1 台 (図)</li> <li>■ 2.5 インチ、ホットスワップ可能 SAS ドライブ 8 台まで (図示なし)</li> </ul> <p>注-ドライブおよびストレージの総容量は注文内容によって異なり、最大の容量は、600 GB ドライブ 6 台または 8 台のいずれかになります。</p>                         |
| 光学式メディア   | 6 ドライブモデルでのみ使用可能: スロット搭載、スリムライン SATA DVD ドライブ 1 台。CD-R/-RW、CD+R/+RW、DVD-R/-RW、DVD+R/+RW (サポートされるメディアで使用した場合) をサポートしています。   |
| サービスプロセッサ | 内蔵 AST2300 SP は、IPMI 2.0 に準拠したりモート管理機能を提供します。SP の機能: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle ILOM 3.1</li> <li>■ 2D グラフィックス (HD-15 VGA コネクタ)</li> <li>■ シリアル管理 (RJ-45)</li> <li>■ ネットワーク管理 (10/100Base-T Ethernet RJ-45)</li> <li>■ リモートの Ethernet 経由 KVMS を含む、完全なホストリモート管理</li> </ul> |

| コンポーネント      | 説明  |
|--------------|---|
| アラームコネクタ     | Telco ドライ接続(電氣的絶縁)ユーザーアラーム。   |
| Ethernet ポート | 10 Gb/s Ethernet ポート x 4(リンク/速度 LED 付き)100 Mb/s、1000 Mb/s、10000 Mb/s 転送速度をサポートしています。  |
| PCIe スロット    | PCIe Gen3 スロット x 6(ロープロファイル PCIe カードを収容する x8 電気インタフェース付き)   |
| USB 2.0 ポート  | 6ポート(前面2基、背面2基、内蔵2基)。<br>注-内蔵 USB ポートのうち1基は、OSA が格納された USB ドライブに事前に組み込まれています。   |
| インジケータとスイッチ  | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 電源ボタンスイッチ</li><li>■ Locate ボタンスイッチ(LED 付き)</li><li>■ システム OK LED</li><li>■ システム障害 LED</li><li>■ アラーム LED - クリティカル、メジャー、マイナー、ユーザー</li><li>■ SP LED</li><li>■ 背面 PS LED</li></ul> |
| 電源装置         | モデルに応じて、次のいずれかの構成になります: <ul style="list-style-type: none"><li>■ ホットスワップ対応 AC 電源 x 2(最大 760 W)</li><li>■ ホットスワップ対応 DC 電源 x 2(最大 660 W)</li></ul>   |
| 冷却           | 内蔵ファン x 5 および各電源に組み込みの電源ファン x 1   |

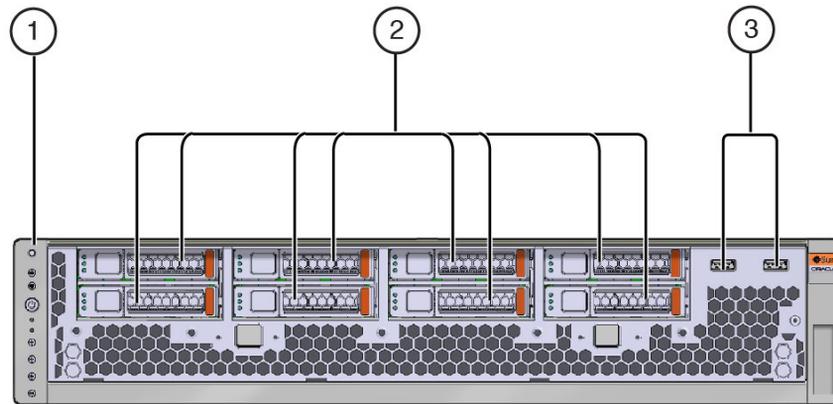
---

## 関連情報

- [7 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [10 ページの「フロントパネルのコンポーネント\(設置\)」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント\(設置\)」](#)
- 『サーバーサービス』

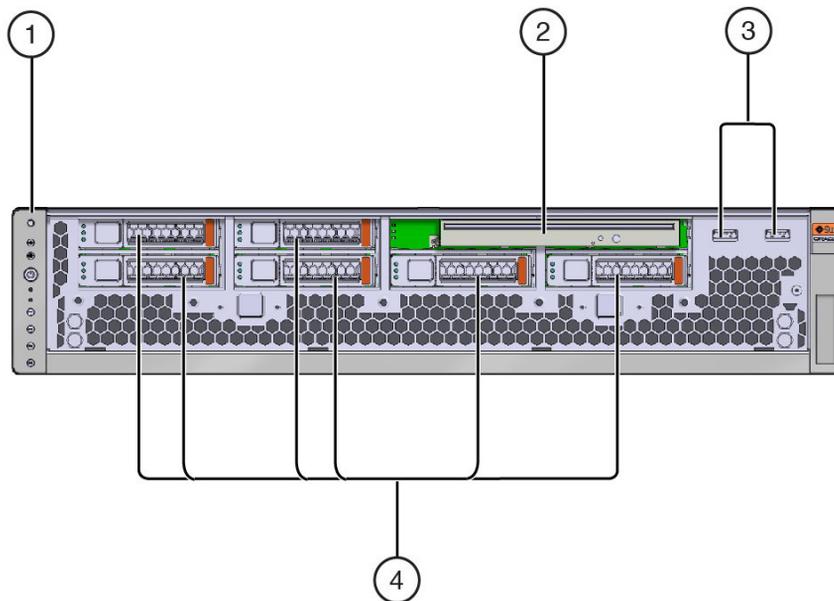
# フロントパネルのコンポーネント(設置)

図1 フロントパネル、8ドライブモデル(フロントフィルタ取り外し)



| 番号 | 説明  | リンク                   |
|----|---|-----------------------|
| 1  | <p>インジケータとスイッチ、上から:</p> <p>状態インジケータ:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ロケータ LED およびボタン</li> <li>■ 保守要求 LED</li> <li>■ システム OK LED</li> <li>■ 電源ボタン</li> <li>■ SP LED</li> <li>■ 背面 PS LED</li> </ul> <p>Telco アラームコネクタ:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ クリティカル LED</li> <li>■ メジャー LED</li> <li>■ マイナー LED</li> <li>■ ユーザー LED</li> </ul> | 『サーバーサービス』、診断 LED の解釈 |
| 2  | SAS ドライブのロット x8   | 『サーバーサービス』、ドライブの保守    |
| 3  | USB 2.0 コネクタ x2   | 96 ページの「USB ポート」      |

図2 フロントパネル、6ドライブモデル(フロントフィルタ取り外し)

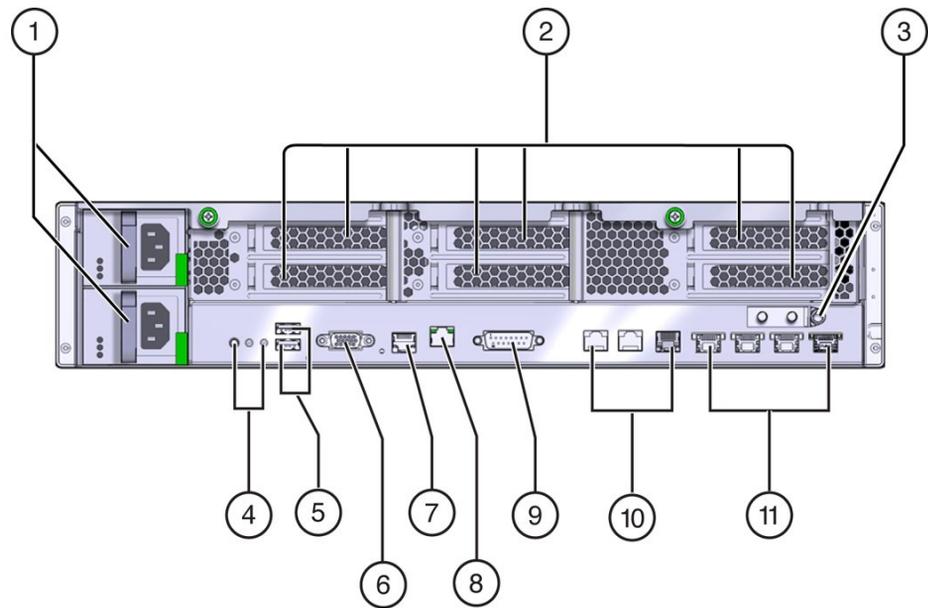


| 番号 | 説明  | リンク                   |
|----|---|-----------------------|
| 1  | インジケータとスイッチ、上から:<br>状態インジケータ:<br><ul style="list-style-type: none"> <li>■ ロケータ LED およびボタン</li> <li>■ 保守要求 LED</li> <li>■ システム OK LED</li> <li>■ 電源ボタン</li> <li>■ SP LED</li> <li>■ 背面 PS LED</li> </ul> Telco アラームコネクタ:<br><ul style="list-style-type: none"> <li>■ クリティカル LED</li> <li>■ メジャー LED</li> <li>■ マイナー LED</li> <li>■ ユーザー LED</li> </ul> | 『サーバーサービス』、診断 LED の解釈 |
| 2  | DVD   | 『サーバーサービス』、DVDの保守     |
| 3  | USB 2.0 コネクタ x2   | 96 ページの「USB ポート」      |
| 4  | SAS ドライブのロット x8   | 『サーバーサービス』、ドライブの保守    |

## 関連情報

- 7 ページの「[設置タスクの概要](#)」
- 8 ページの「[サーバーの概要](#)」
- 13 ページの「[背面パネルのコンポーネント \(設置\)](#)」
- 『[サーバーサービス](#)』

## 背面パネルのコンポーネント (設置)



| 番号 | 説明   | リンク                                      |
|----|--|--|
| 1  | ホットスワップ対応電源 (AC または DC)、上から:<br>PS1、PS0            | 『サーバーサービス』、電源の保守                         |
| 2  | PCIe ロープロファイルスロット x 6                              | 『サーバーサービス』、PCIe カードの保守                   |
| 3  | シャーシ接地ポスト  | <a href="#">103 ページの「シャーシのアース線を接続する」</a> |
| 4  | 状態インジケータ: ロケータ LED およびボタン、保<br>守要求 LED、システム OK LED | 『サーバーサービス』、診断 LED の識別                    |
| 5  | USB 2.0 ポート x 2                                    | <a href="#">96 ページの「USB ポート」</a>         |

| 番号 | 説明   | リンク   |
|----|--|---|
| 6  | SP 15 ピン VGA ビデオポート<br>注- このポートは、インストールまたは保守手順時に一時的に使用するためのもので、最大ケーブル長制限は 6m です。 | <a href="#">96 ページの「ビデオポート」</a>             |
| 7  | SP SER MGT ポート   | <a href="#">92 ページの「SER MGT ポート」</a>        |
| 8  | SP NET MGT ポート   | <a href="#">93 ページの「NET MGT ポート」</a>        |
| 9  | アラームポート、DB-15 コネクタ   | <a href="#">98 ページの「アラームポート」</a>            |
| 10 | この製品ではサポートされていません。これらのポートにケーブルを接続しないでください。                                       |   |
| 11 | ギガビット Ethernet ポート x 4 (左から順に、NET3、NET2、NET1、NET0)                               | <a href="#">94 ページの「ギガビット Ethernet ポート」</a> |

---

## 関連情報

- [7 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [8 ページの「サーバーの概要」](#)
- [10 ページの「フロントパネルのコンポーネント \(設置\)」](#)
- 『サーバーサービス』

# サーバーと設置場所の仕様の確認

---

次の各トピックでは、サーバーの仕様に関する情報を提供します。

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「保守用最小スペース」
- 16 ページの「AC および DC 電源仕様」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」
- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」
- 21 ページの「通気のスペース」

## 関連情報

- 7 ページの「サーバーの概要」
- 23 ページの「設置の準備」
- 29 ページの「サーバーの 4 ポストラックへの設置」
- 55 ページの「サーバーの 2 ポストラックへの設置」
- 87 ページの「ケーブルの接続」
- 101 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

## 物理仕様

| 寸法              | 測定値                  |
|-----------------|----------------------|
| 幅               | 445 mm (17.52 インチ)   |
| 高さ              | 87.4 mm (3.44 インチ)   |
| ベゼルから背面の突起までの奥行 | 514 mm (20.25 インチ)   |
| 重量              | 41.23 ポンド (18.70 kg) |

## 関連情報

- 16 ページの「保守用最小スペース」
- 16 ページの「AC および DC 電源仕様」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」
- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」
- 21 ページの「通気スペース」

## 保守用最小スペース

| 説明          | 仕様             |
|-------------|----------------|
| スペース、サーバー前面 | 91 cm (36 インチ) |
| スペース、サーバー背面 | 91 cm (36 インチ) |

## 関連情報

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「AC および DC 電源仕様」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」
- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」
- 21 ページの「通気スペース」

## AC および DC 電源仕様

次の表の値は、電源の仕様を示しています。

| パラメータ     | AC   | DC                                   |
|-----------|--|--------------------------------------|
| 電圧 (公称)   | 100 - 120/200 - 240 VAC (90 - 132/180 - 264 VAC の範囲) | -48 または -60 VDC (-40 から -72 VDC の範囲) |
| 入力電流 (最大) | 6.8A @ 100-120 VAC<br>3.4A @ 200-240 VAC             | 14.2A @ -48 VDC<br>11.3A @ -60 VDC   |
| 周波数 (公称)  | 50/60 Hz (47 - 63 Hz の範囲)                            | 該当なし                                 |

| パラメータ  | AC   | DC               |
|--------|------|------------------|
| DC入力処理 | 該当なし | 絶縁されたDC帰線 (DC-I) |

## 関連情報

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「保守用最小スペース」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」
- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」
- 21 ページの「通気のスペース」

## 入力電力の情報

サーバーの総入力電力は、動作している電源装置間で均等に分配されます。DC 入力サーバーの電源装置への正入力と負入力を逆にしても損傷は生じません。ただし、入力が逆になった電源装置は動作しません。

電源装置への入力は、サーバーシャーシおよびその他の電源装置入力から絶縁されています。AC または DC 電源の入力は許容範囲内で電圧が異なることがあり、サーバーシャーシに関連してオフセット電圧が異なる場合があります。

---

注 - 設備に電圧サージを 2000 V 未満に制限するサージプロテクタが装備されている場合、サーバーには AC 電源構成への追加のサージプロテクタは必要ありません。ただし、追加のサージプロテクタが必要な現場の場合は、サージプロテクタを設置できます。

---



---

注 - 安全性試験機関の要件により、オラクル社は、製品を試験機関が承認する製造場所から移動したあとで、AC 入力から DC 入力、または DC 入力から AC 入力に製品を変更することを禁止されています。

---

## 関連情報

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「保守用最小スペース」
- 16 ページの「AC および DC 電源仕様」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」

- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」
- 21 ページの「通気のスぺース」

## 過電流保護の要件

本製品には、U.S. NEC に定義されている分岐回路の過電流保護は装備されていません。U.S. NEC に準拠するためには、U.S. NEC 第 240 項に定義されている過電流保護を装備した分岐回路上に本製品を設置する必要があります。

- 定格電流が 16 A 以下の製品の電力入力には、定格が 20 A 以下の分岐回路または補助的な過電流保護装置が必要になります。
- 定格電流が 16 A より大きい製品の電力入力には、製品定格が 160% 以下の分岐回路または補助的な過電流保護装置が必要になります。
- 他の国内または地域の電気工事規定が、この製品の設置に適用される場合があります。

一般的なガイドラインとして、高温および過渡電圧擾乱条件の下で安定した電力を供給するためには、製品定格が 125% 以上の過電流保護装置が必要です。ただし、製品設置において保護装置の定格を決める際は、保護装置の特性と該当する電気工事規定について考慮する必要があります。

---

注- 過電流保護装置は、国内と地域の両方の電気安全基準に適合し、かつ用途に合った装置を使用してください。

---

### 関連情報

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「保守用最小スぺース」
- 16 ページの「AC および DC 電源仕様」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」
- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」
- 21 ページの「通気のスぺース」

## DC 電源、電源接続、およびアース要件

サーバーの電源と接続は次の要件を満たす必要があります。

注-DC 版のサーバーは立ち入りが制限された場所に設置する必要があります。U.S. NECによれば、立ち入りが制限された場所とは、認定または訓練された担当者のみ許可された領域で、鍵またはアクセスカードによる施錠システムでアクセスが制御されている領域を指します。



注意-DC 電源は確実に接地する必要があります。サーバーシャーシは、電源の接地ピンまたはシャーシのアース端子で接地する必要があります。両方のアースを接続してもかまいません。



注意-装置への主入力上に過渡エネルギーが生じる可能性を最小限に抑えるよう、サーバーは必ず DC 電源に接続してください。DC バッテリー電源は、サーバーと同じ構内にある必要があります。別の建物の電源を使用する建物内にサーバーを設置することはできません。

- 導線に適した材質: 銅導線のみを使用。
- 入力コネクタと電源装置の間の接続: 12 AWG (サーバーと電源の間)。3 本の導線で構成されます:
  - -48V または -60V (負極にはマイナス (-) 記号が付いている場合があります)。
  - シャーシのアース接続 (シャーシのアース線が接続されている場合はオプションです)。
  - -48V または -60V 帰線 (正極にはプラス (+) 記号が付いている場合があります)。
- サーバーシャーシアース 12 AWG 導線 (電源アースが接続されている場合はオプションです)。
- アースケーブル絶縁の色: 緑色/黄色。
- 絶縁定格: 最低 75°C (167°F)。設置場所によっては低煙低ガス化、難燃性の絶縁材が必要な場合があります。
- 製品の DC 入力に適切に接続するため、Wago パーツ番号 721-103/037-000 のメイトコネクタを使用します。コネクタはサーバーの出荷用キットに含まれています。
- 分岐回路ケーブル絶縁の色: 米国の電気工事基準 (National Electrical Code) に基づく。
- DC 電源は、UL 60950-1 および IEC 60950-1 で定義されている TNV-2 要件を満たす必要があります。

## 関連情報

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「保守用最小スペース」
- 16 ページの「AC および DC 電源仕様」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」
- 21 ページの「通気のスペース」

## 環境要件

| 仕様                | 動作   | 非動作時                                  |
|-------------------|--|---------------------------------------|
| 環境温度 <sup>1</sup> | 最高温度: 最大 1829 m (6000 フィート) まで 5°C - 40°C<br>(41°F - 104°F) <sup>2</sup><br><br>最適温度: 21°C - 23°C (69.8°F - 73.4°F)<br><br>短期間最高温度: -5°C - 55°C (23°F - 131°F) | -40°C - 70°C (-40°F - 158°F)          |
| 相対湿度              | 5 - 85%、結露なし<br><br>短期間 5 - 90% 結露なし、ただし乾燥空気 1kg 当たりの<br>水 0.024kg 以下  | 最大 93% 非凝縮、最大湿球温度<br>37.7°C (100.4°F) |
| 高度 (NEBS の要件)     | 40°C (104°F) にて -60 - 1800 m (-200 - 5900 フィート)<br><br>30°C (86°F) にて 1800 - 4000 m (5900 - 13100 フィート)  |                                       |

<sup>1</sup> リムーバブルメディアデバイスには適用されません。

<sup>2</sup> 動作時の周囲の最高温度は、500 m 上昇するたびに 1°C 下がります。

## 関連情報

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「保守用最小スペース」
- 16 ページの「AC および DC 電源仕様」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」
- 21 ページの「通気のスペース」

## 音響ノイズの放出

サーバーの公表ノイズ放出値は、ISO 9296 規格に準拠しています。

| パラメータ          | 動作時のノイズの放出       |
|----------------|------------------|
| 音響出力 LwA (dBA) | 72 dBA (AC サーバー) |
|                | 72 dBA (DC サーバー) |

### 関連情報

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「保守用最小スペース」
- 16 ページの「AC および DC 電源仕様」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」
- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「通気スペース」

## 通気スペース

注-サーバーの内部温度を安全な動作範囲内に保つためには、サーバーの適度な通気が不可欠です。

サーバーはサーバーの前面から冷気を取り入れ、背面から熱気を排出します。次のガイドラインに従って、サーバーの過熱を防止します:

- 空気が、サーバーの前面から吸気され、背面に排気されることを確認してください。
- サーバーの通気が妨げられていないことを確認してください。
- サーバー前面の吸気口に暖かい空気を直接当てないでください。
- ラックまたはキャビネット内で排気が再循環しないようしてください。
- サーバの排気口の妨げにならないように、ケーブルをまとめてください。
- 空気の吸気と排気に使用される、サーバーの通気孔が、サーバーの前面と背面の開放された部分の穴のうちの、少なくとも 60% の部分を使用するようにします。
- 取り付け時にシステムの前面に 5 mm (0.2 インチ) 以上、サーバーの背面に 80 mm (3.1 インチ) 以上のスペースを空けてください。これらのスペースの値は、前述の吸気および排気の比 (使用可能な開放部分) に基づいたもので、開放部分が吸気お

よび排気面に均一に分散していると仮定しています。冷却パフォーマンスを高めるために、さらに広いスペースを確保することをお勧めします。

---

注-キャビネットドアやドアからサーバーまでのスペースなど、吸気および排気に関する制限の組み合わせは、サーバーの冷却パフォーマンスに影響を与える可能性があることに注意してください。

---

## 関連情報

- 15 ページの「物理仕様」
- 16 ページの「保守用最小スペース」
- 16 ページの「ACおよびDC電源仕様」
- 17 ページの「入力電力の情報」
- 18 ページの「過電流保護の要件」
- 19 ページの「DC電源、電源接続、およびアース要件」
- 20 ページの「環境要件」
- 21 ページの「音響ノイズの放出」

# 設置の準備

---

これらのトピックでは、サーバーの設置を準備する方法について説明します。

- 23 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 26 ページの「オプションコンポーネント」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」
- 28 ページの「ラックを固定する」

## 関連情報

- 7 ページの「サーバーの概要」
- 15 ページの「サーバーと設置場所の仕様の確認」
- 29 ページの「サーバーの4ポストラックへの設置」
- 55 ページの「サーバーの2ポストラックへの設置」
- 87 ページの「ケーブルの接続」
- 101 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

## 出荷キットの内容一覧

標準のシステムコンポーネントは工場に取り付けられています。PCIe カードやモニタなどのオプションは個別に出荷されます。

---

注- 出荷用梱包箱を検査して、物理的な損傷がないかどうかを確認してください。出荷用梱包箱に損傷がある場合は、開梱の際に運送業者の立ち会いを要請してください。業者が検査できるように、箱の中身と梱包材はすべて保管しておいてください。

---

サーバーの部品がすべて届いていることを確認します。

- サーバー

- ラックマウントキット
- 各種ラックやキャビネットに適合した、さまざまなサイズの取り付けねじおよびナットのパッケージ
- アース端子と M5 ナット 2 本
- ハードウェア、ケーブル、ドキュメント、コネクタ
- サーバーと一緒に注文したすべてのオプションのコンポーネント

### 関連情報

- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 26 ページの「オプションコンポーネント」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」
- 28 ページの「ラックを固定する」

## 取り扱い上の注意



---

注意-取り付けを開始する前に、装置ラックに転倒防止バーを設置してください。

---



---

注意-サーバーは重量があります。このドキュメントの手順に従って、サーバーを持ち上げてラック格納装置に取り付けるには、2人の作業員が必要です。15 ページの「物理仕様」を参照してください。

---



---

注意-2人で行う手順については、各手順の前後および作業中に常に意思の疎通を図り、混乱が起こらないようにしてください。

---

## 関連情報

- 23 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 26 ページの「オプションコンポーネント」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」
- 28 ページの「ラックを固定する」

## 静電気放電に関する注意事項

電子機器は、静電気により損傷する可能性があります。サーバーの設置または保守作業時は、接地された静電気防止リストストラップ、フットストラップ、または同様の安全器具を使用して、静電気による損傷 (ESD) を防止します。



注意-静電気により損傷を受けると、サーバーを永久に使用できなくなったり、サービス技術者による修理が必要になる場合があります。静電気から電子部品を保護するには、部品を静電気防止マット、静電気防止バッグまたは使い捨ての静電気防止マットなどの帯電防止面に置きます。サーバーコンポーネントを取り扱うときは、シャーシの金属面に接続された静電気防止用アースストラップを着用してください。

## 関連情報

- 23 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 26 ページの「オプションコンポーネント」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」
- 28 ページの「ラックを固定する」

## 設置に必要な工具

システムを設置するには、次の工具が必要です:

- プラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- ESD マットおよびアースストラップ

最初のインストール構成で、コンソールデバイスとして使用する端末デバイスを用意する必要があります。次のタイプのデバイスを使用できます:

- ASCII 端末
- ワークステーション

- 端末サーバー
- 端末エミュレーションソフトウェアを実行するノートパソコンなどのコンピュータ
- 端末サーバーに接続されたパッチパネル
- コンソールデバイスをSER MGTポートに接続するために必要なケーブル。

### 関連情報

- 23 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 26 ページの「オプションコンポーネント」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」
- 28 ページの「ラックを固定する」

## オプションコンポーネント

システムの一部として注文された追加メモリーやPCIe2カードなどのオプションのコンポーネントは、サーバーの出荷前に工場ですべてのサーバーに取り付けられます。システムと一緒に注文されていないオプションは別に出荷されます。可能な場合は、サーバーをラックに取り付ける前に、これらのコンポーネントを取り付けてください。

ラックマウントキットを除いて、工場ですべてのサーバーに取り付けられないオプションを注文した場合は、取り付け手順について、『サーバーサービス』およびコンポーネントのドキュメントを参照してください。

### 関連情報

- 23 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」
- 28 ページの「ラックを固定する」

## ラックに関する注意事項



注意-装置の搭載。上方が重くなり転倒することがないように、装置は必ずラックの最下段から上へ順次搭載してください。転倒防止機構を装備しているラックであれば、サーバー取り付け時に活用してください。



注意-動作時周辺温度の上昇。密閉されたラックアセンブリまたはマルチユニットのラックアセンブリにサーバーを設置している場合、ラック環境の動作時周辺温度が室内の周辺温度より高くなる場合があります。したがって装置は、サーバーに指定されたTMAに適合する環境内のみ設置してください。



注意-通気の低下。装置をラックに取り付けて、装置が安全に動作するための十分な通気を得られるようにします。



注意-装置の配置。装置をラックに取り付けて、重量が均等に分散されるようにします。装置の配置が不均等な場合、危険な状態になっている可能性があります。



注意-回路の過負荷。電源装置の回路に過大な電流が流れないようにします。サーバーを電源回路に接続する前に、装置のラベルに示されている電力定格を確認し、回路の過負荷によって過電流保護や装置の配線にどのような影響があるかを検討します。



注意-安全な接地。ラックに搭載する装置は必ず安全に接地します。分岐回路への直接接続以外の電源接続(電源タップの使用など)の場合は、特に注意してください。



注意-スライドレールに搭載した装置を、シェルフやワークスペースとして使用しないでください。

### 関連情報

- 23 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」

- 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 26 ページの「オプションコンポーネント」
- 28 ページの「ラックを固定する」

## ▼ ラックを固定する



---

注意-作業員が負傷する危険性を低減するために、ラックキャビネットを固定し、すべての転倒防止装置を伸ばしてから、サーバーを取り付けます。

---

次の手順の詳細な説明については、ラックのドキュメントを参照してください。

---

注-このドキュメントでは、用語「ラック」とはオープンラックまたはクローズキャビネットを意味します。

---

- 1 ラックキャビネットの前面ドアと背面ドアを開いて取り外します。
- 2 取り付け中にラックキャビネットが転倒しないように、あらゆる転倒防止方法を用いてキャビネットを固定します。
- 3 横転を防ぐための平行調整脚がラックの下部にある場合は、調整脚を床まで完全に伸ばします。
- 4 ラックキャビネットの転倒防止脚または転倒防止バーを完全に伸ばします。これらは、ラックキャビネットの前面の下にあります。

### 参考 関連情報

- ラックキャビネットのドキュメント
- Netra Server X3-2 (formerly Sun Netra X4270 M3 Server) Safety and Compliance Guide
- 23 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 26 ページの「オプションコンポーネント」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

# サーバーの4ポストラックへの設置

---

ここでは、複数のラックマウントキットを使用してサーバーを4ポスト装置ラックに取り付ける方法について説明します。

| 手順 | 説明                    | リンク  |
|----|-----------------------|--|
| 1. | オプションのコンポーネントを取り付けます。 | <a href="#">26 ページの「オプションコンポーネント」</a>  |
| 2. | 注意事項を確認します。           | <a href="#">24 ページの「取り扱い上の注意」</a>  |
| 3. | ラックを安定させます。           | <a href="#">28 ページの「ラックを固定する」</a>  |
| 4. | サーバーを4ポストラックに取り付けます。  | <a href="#">30 ページの「標準 19 インチハードマウントキット (4 ポストラック) の取り付け」</a><br><a href="#">35 ページの「19 インチスライドレールキット (4 ポストラック) の取り付け」</a><br><a href="#">44 ページの「600 mm ハードマウントキット (4 ポストラック) の取り付け」</a> |

---

## 関連情報

- [7 ページの「サーバーの概要」](#)
- [15 ページの「サーバーと設置場所の仕様の確認」](#)
- [23 ページの「設置の準備」](#)
- [55 ページの「サーバーの2ポストラックへの設置」](#)
- [87 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [101 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

## 標準 19 インチハードマウントキット (4 ポストラック) の取り付け

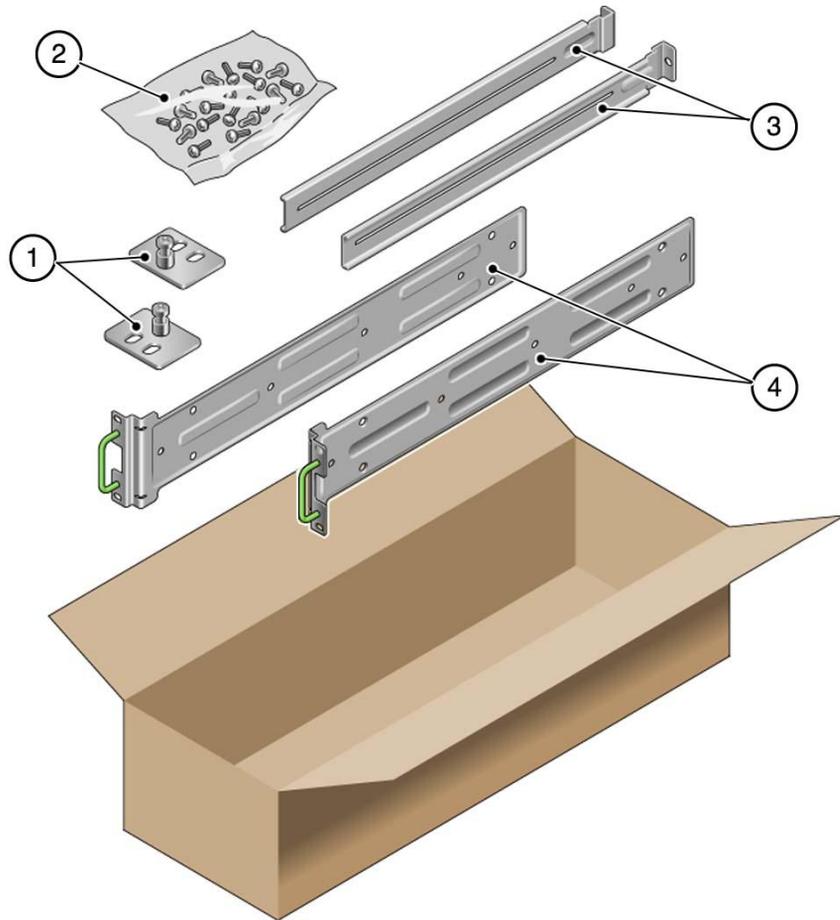
ここでは、サーバーに付属する 19 インチ4 ポストハードマウントキットでの取り付け手順について説明します。

- 30 ページの「19 インチハードマウントキット (4 ポストラック)」
- 32 ページの「サーバーを取り付ける (4 ポスト 19 インチハードマウントキット)」

### 関連情報

- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## 19 インチハードマウントキット (4 ポストラック)



| 番号 | 説明               |
|----|------------------|
| 1  | 背面取り付けフランジ (2つ)  |
| 2  | ねじ (次の表を参照)      |
| 3  | 背面固定部品 (2つ)      |
| 4  | ハードマウント固定部品 (2つ) |

## 関連情報

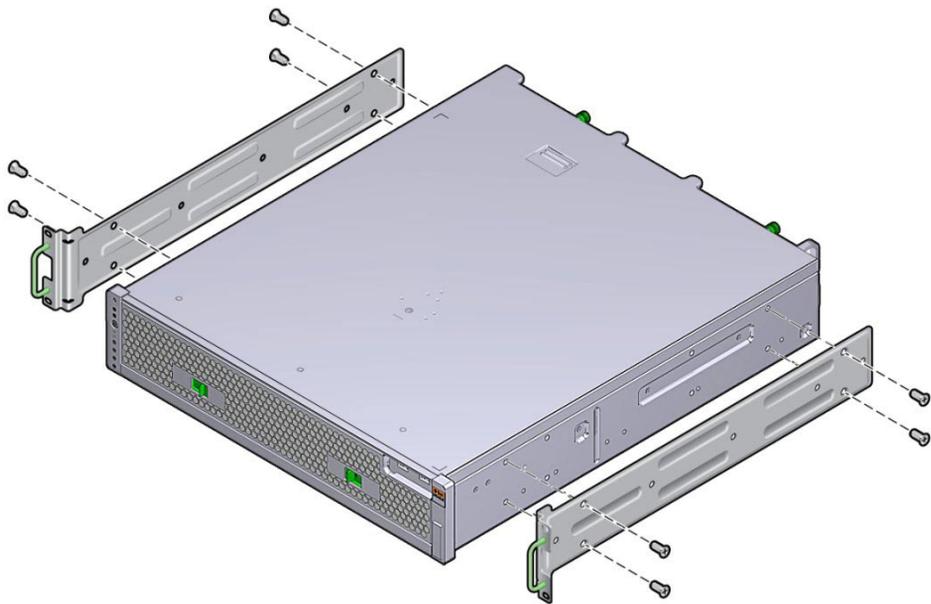
- 32 ページの「サーバーを取り付ける (4 ポスト 19 インチハードマウントキット)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## ▼ サーバーを取り付ける (4ポスト19インチハードマウントキット)

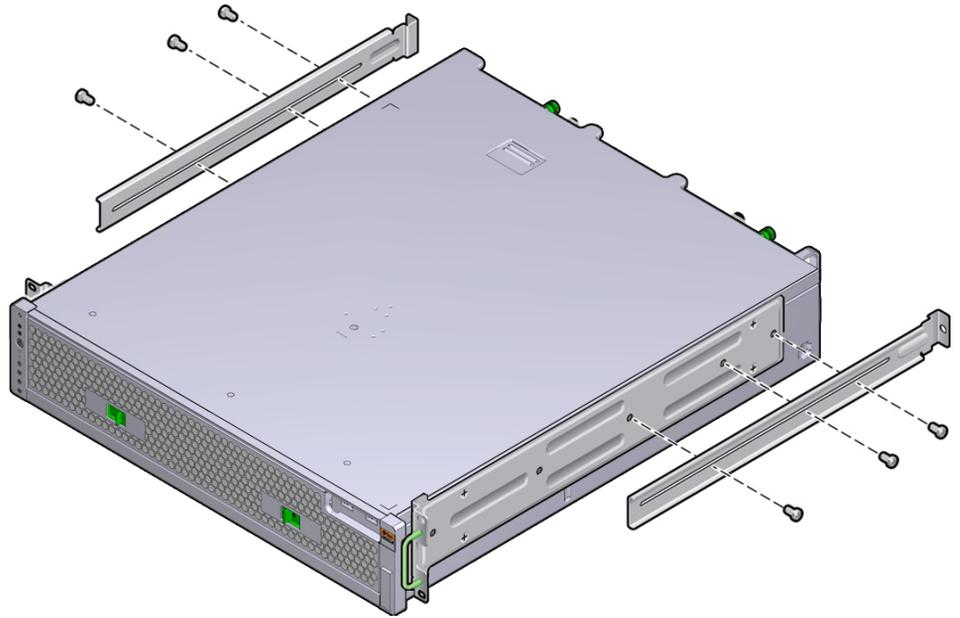


注意-ラックにサーバーを取り付けるときは、必ずここに示す手順に従ってください。この手順に従わずにサーバーを取り付けた場合は、サポートの対象外となります。

- 1 必要な工具類を用意します。  
25ページの「[設置に必要な工具](#)」を参照してください。
- 2 サーバーに関する注意事項をお読みください。  
24ページの「[取り扱い上の注意](#)」および25ページの「[静電気放電に関する注意事項](#)」を参照してください。
- 3 ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。  
27ページの「[ラックに関する注意事項](#)」および28ページの「[ラックを固定する](#)」を参照してください。
- 4 付属の M5x4.5 mm プラス皿頭ねじを4本ずつ使用して、各ハードマウント固定部品をサーバーの側面に固定します。

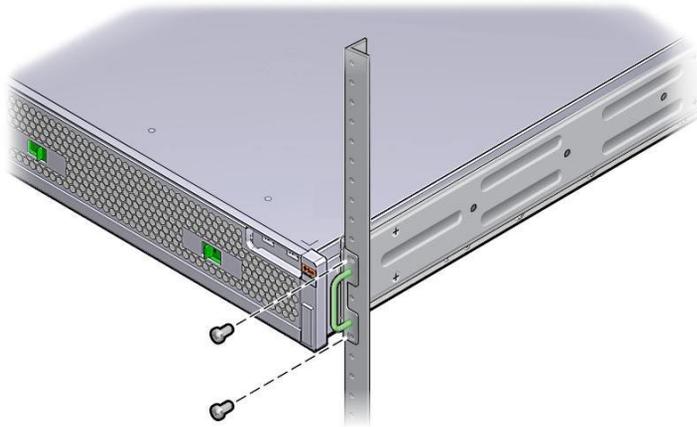


- 5 ラックの奥行を測定します。  
測定には、次の手順を実行します。
- 6 背面固定部品をサーバーの背面側に取り付けます。このとき、測定したラックの奥行に合わせて背面固定部品を伸ばします。  
ラックの奥行に応じて、各固定部品に対して付属の M4x0.5x5 mm プラスなべ頭ねじを2本または3本使用します。

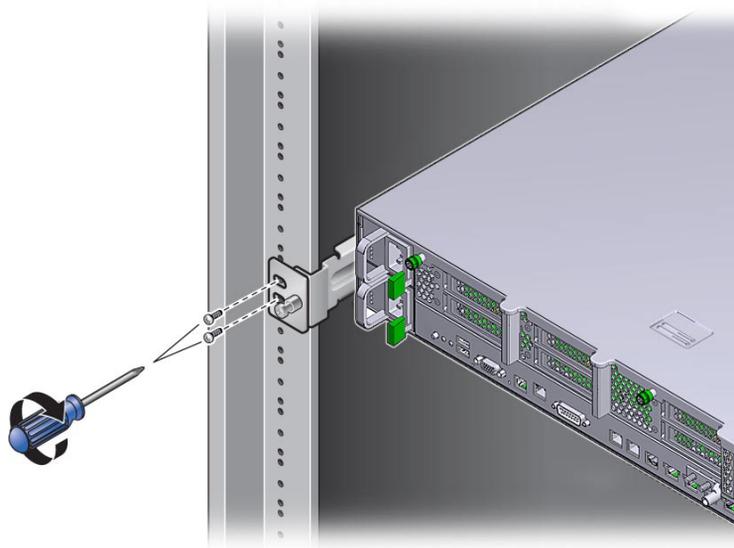


- 7 ラックの取り付け位置までサーバーを持ち上げます。

- 各側面でねじを2本ずつ使用して、サーバーの側面に取り付けられたハードマウント固定部品の前面を固定します。



- 各背面固定部品にねじを2本ずつ使用して、背面固定部品をラックの背面に固定します。



- 必要なケーブルとオプションのケーブルを接続します。  
[87ページの「ケーブルの接続」](#)を参照してください。

**参考 関連情報**

- 30 ページの「19 インチハードマウントキット (4 ポストラック)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## 19 インチスライドレールキット (4 ポストラック) の取り付け

次のトピックを参照して、このオプションの 19 インチスライドレールキットを使用し、サーバーを取り付けます。

- 35 ページの「19 インチスライドレールキット (4 ポストラック)」
- 37 ページの「サーバーを取り付ける (4 ポスト 19 インチスライドレールキット)」

### 関連情報

- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## 19 インチスライドレールキット (4 ポストラック)

サーバーに付属していた標準ラックマウントキットのハードマウント固定部品も必要です。30 ページの「19 インチハードマウントキット (4 ポストラック)」を参照してください。

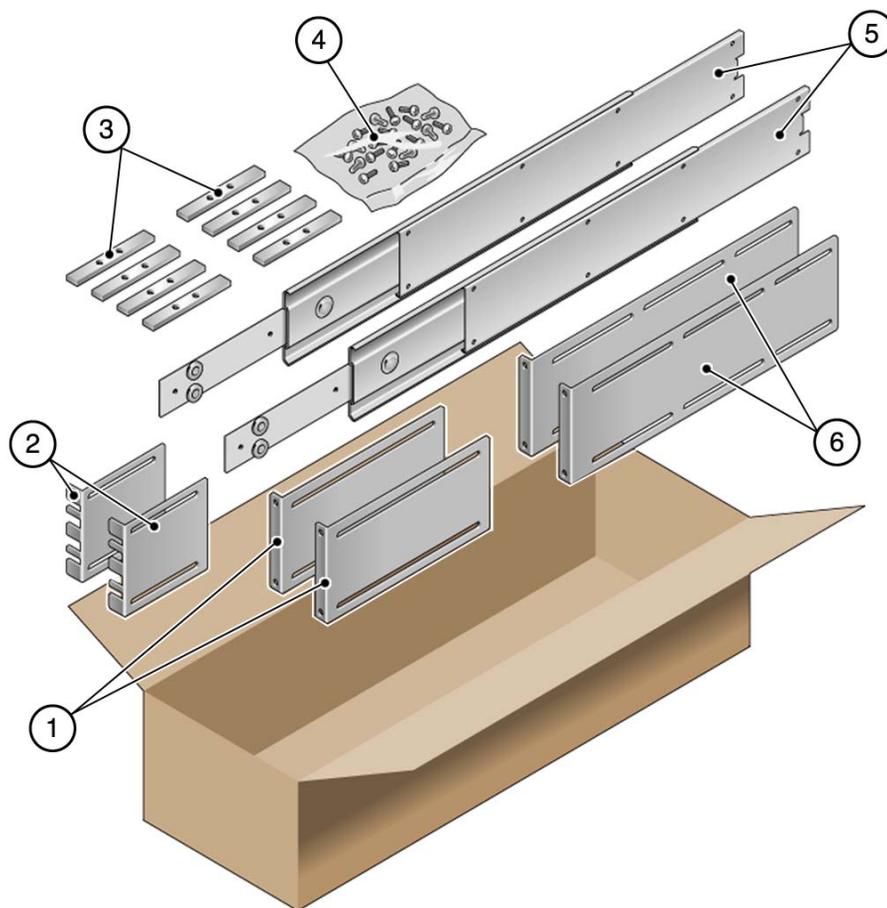


表1 19 インチスライドレールキットの内容

| 番号 | 説明                      |
|----|-------------------------|
| 1  | 短い固定部品 (2つ)             |
| 2  | 拡張部品 (2つ)               |
| 3  | M6用および10-32用のねじ受け (各4つ) |
| 4  | ねじ                      |
| 5  | Telco スライド構成部品 (2つ)     |
| 6  | 長い固定部品 (2つ)             |

表2 19インチスライドレールねじ

| 数量 | 説明                                      | 使用箇所                           |
|----|---|--------------------------------|
| 10 | M4×0.5 mm×5 mm のプラスのなべ頭ねじ               | レール用 8 本、予備 2 本                |
| 10 | M6 真鍮製カラーねじ                             | 短い固定部品用 4 本、長い固定部品用 4 本、予備 2 本 |
| 8  | M5 なべ頭ねじ、ナット、平ワッシャー、および歯付きワッシャー         | スライド用 8 本                      |
| 10 | M5×12.7 mm ねじ                           | ラック用 10 本 (必要な場合に使用)           |
| 12 | M6×13 mm ねじ                             | ラック用 10 本 (必要な場合に使用)           |
| 9  | M6 角型クリップナット                            | ラック用 9 本 (必要な場合に使用)            |
| 10 | 10-32 のカラーねじ (短いねじ 4 本、長いねじ 4 本、予備 2 本) | 10-32 の穴があるラック用 8 本 (必要な場合に使用) |
| 12 | 10-32×0.5 インチのプラスマイナスねじ                 | ラック用 12 本 (必要な場合に使用)           |
| 12 | 12-24×0.5 インチのプラスマイナスねじ                 | ラック用 12 本 (必要な場合に使用)           |

### 関連情報

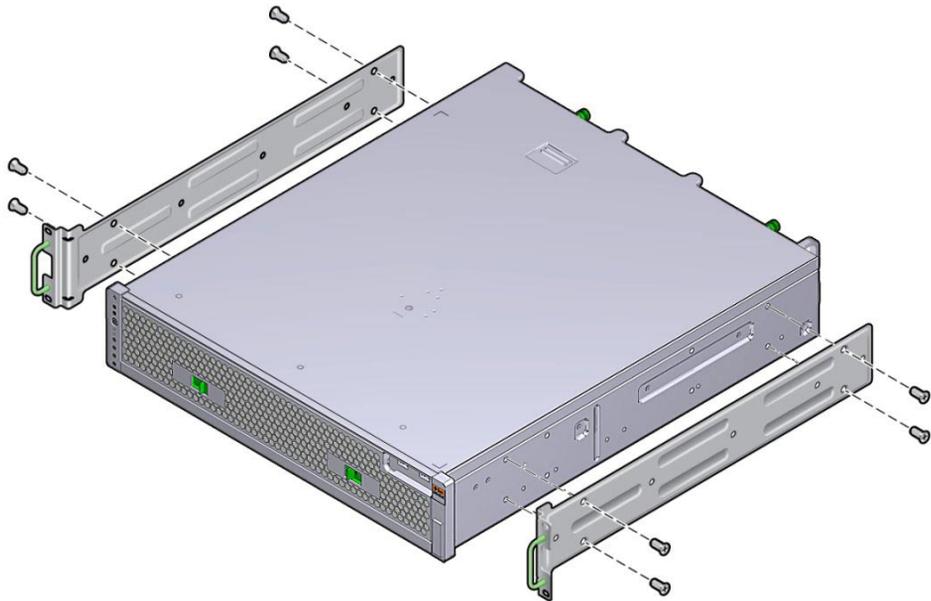
- 37 ページの「サーバーを取り付ける (4 ポスト 19 インチスライドレールキット)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## ▼ サーバーを取り付ける (4 ポスト 19 インチスライドレールキット)

注 - 前面レールと背面レールの間隔は、前面レールの外側から背面レールの外側までが 392 mm (15.43 インチ) 以上 863.6 mm (34 インチ) 以下である必要があります。

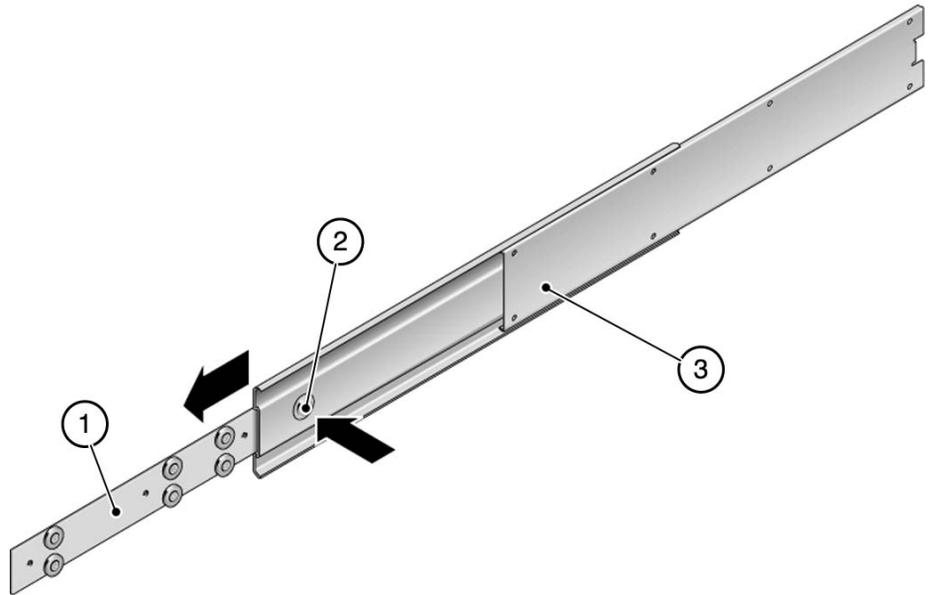
- 1 必要な工具類を用意します。  
25 ページの「設置に必要な工具」を参照してください。
- 2 サーバーに関する注意事項をお読みください。  
24 ページの「取り扱い上の注意」および 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」を参照してください。

- 3 ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。  
27ページの「ラックに関する注意事項」および28ページの「ラックを固定する」を参照してください。
- 4 標準ラックキットからハードマウント固定部品およびM5×4.5 mm プラス皿頭ねじを取り出します。  
これらのハードマウント固定部品およびねじは、4ポスト19インチのスライドレールキットの一部ではなく、標準のサーバー出荷キットに同梱されています。  
30ページの「19インチハードマウントキット(4ポストトラック)」を参照してください。
- 5 付属のM5×4.5 mm プラス皿頭ねじを4本ずつ使用して、各ハードマウント固定部品をサーバーの側面に固定します。



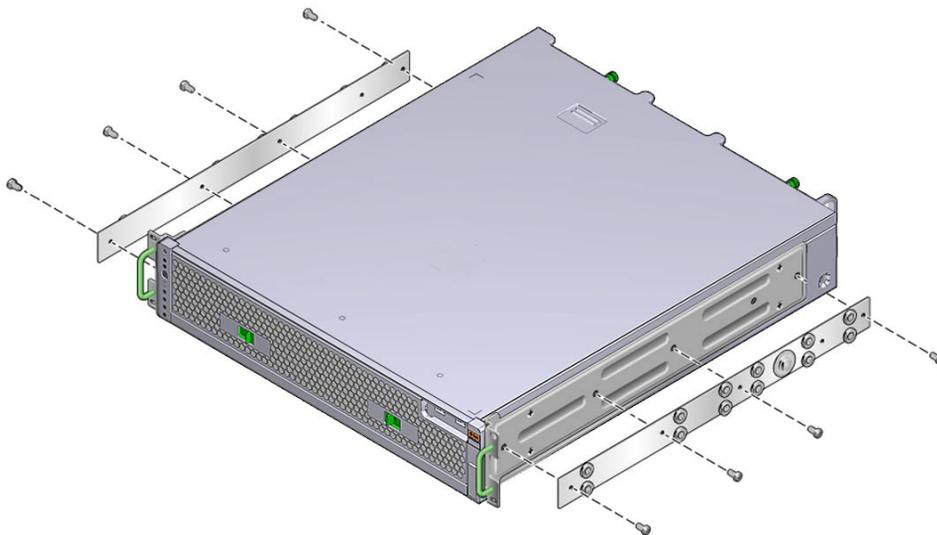
- 6 ラックキットからTelcoスライド構成部品を取り出します。

- 7 各スライドのボタンを押し、レールをスライドから完全に引き出します。



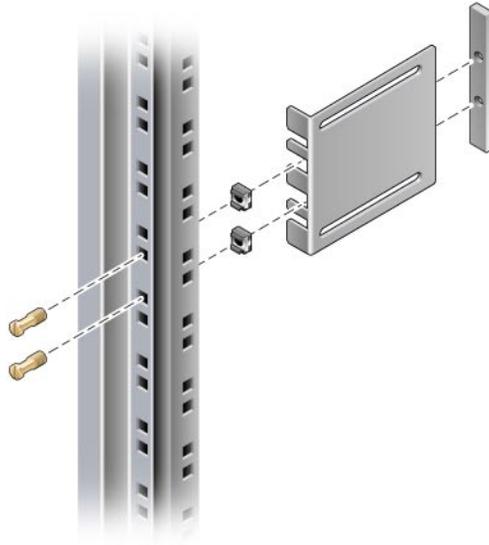
| 番号 | 説明   |
|----|------|
| 1  | レール  |
| 2  | ボタン  |
| 3  | スライド |

- 8 ラックマウントキットの M4×0.5×5 mm プラスなべ頭ねじを 8 本(各側面に 4 本ずつ)使用して、各レールをサーバーシャーシの側面に固定します。



- 9 ラックマウントキットから短い固定部品と長い固定部品を取り出します。
- 10 短い固定部品をそれぞれ持ち上げてラックの「前面」の取り付け位置に合わせて、ラック前面の各支柱に取り付けます。  
M6 真鍮製カラーねじ 2 本と M6 ケージナット 2 つ (必要に応じて)、およびねじ受け 1 つを使用して、各固定部品を取り付けます。

- 11 長い固定部品をそれぞれ持ち上げてラックの「背面」の取り付け位置に合わせ、ラック背面の各支柱に取り付けます。  
前の手順のラック前面の支柱の場合とまったく同様に、M6 真鍮製カラーねじ 2 本と M6 ケージナット 2 つ (必要に応じて)、およびねじ受け 1 つを使用して、各固定部品を取り付けます。



---

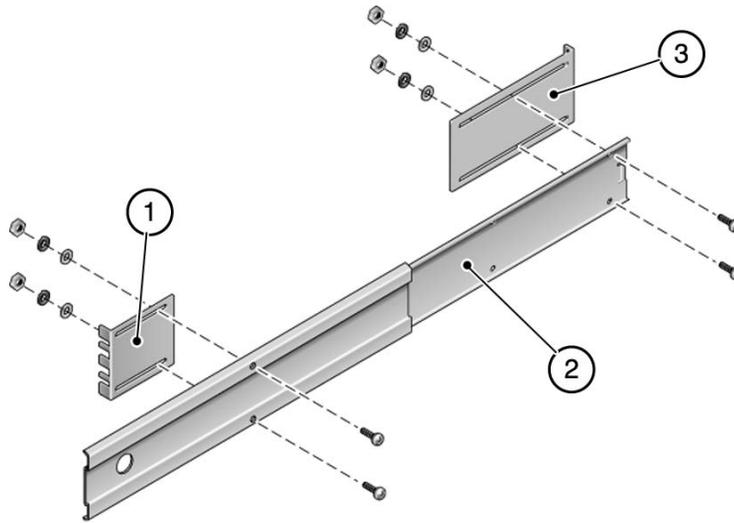
注- ラックに 10-32 の穴がある場合は、10-32 のカラーねじおよび 10-32 のねじ受けを使用してください。

---

- 12 作業用の穴が前面側のねじ穴と重なるまで、スライドを引き出します。

- 13 ラックの前面および背面でスライドを短い固定部品および長い固定部品に固定します。

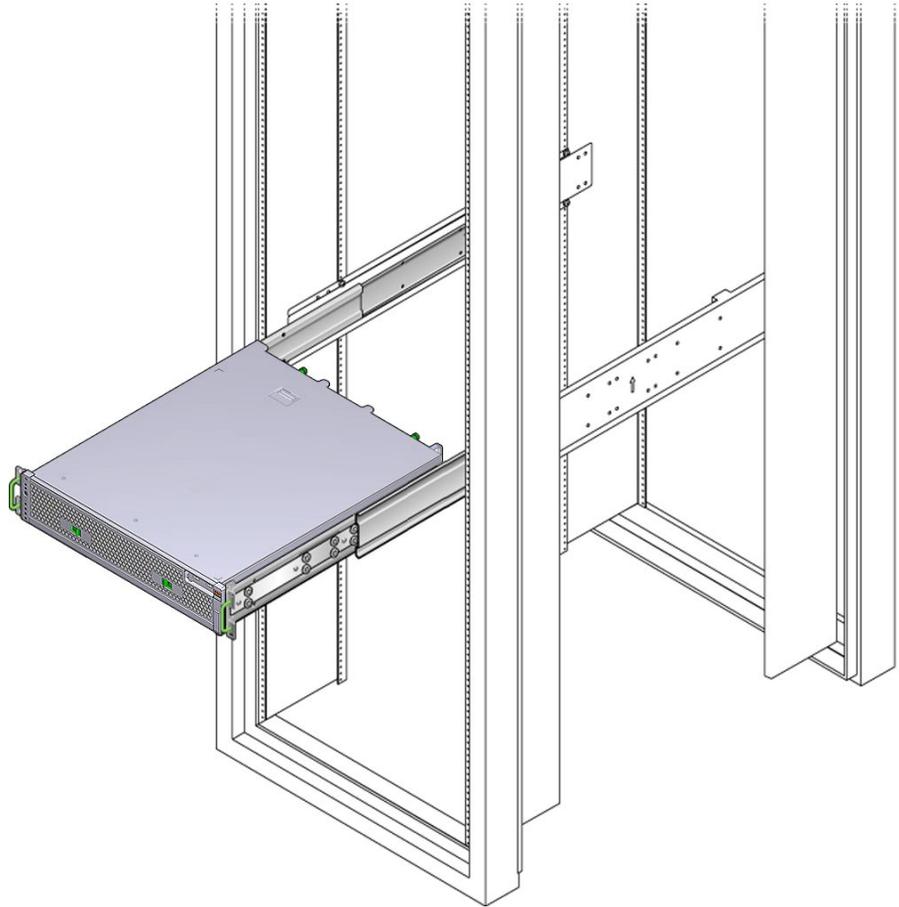
M5なべ頭ねじは内側から使用します。M5 ナット、平ワッシャー、および歯付きワッシャーは外側から使用します。寸法が 665 mm を超える場合は、長い固定部品の代わりに拡張部品を使用してください。



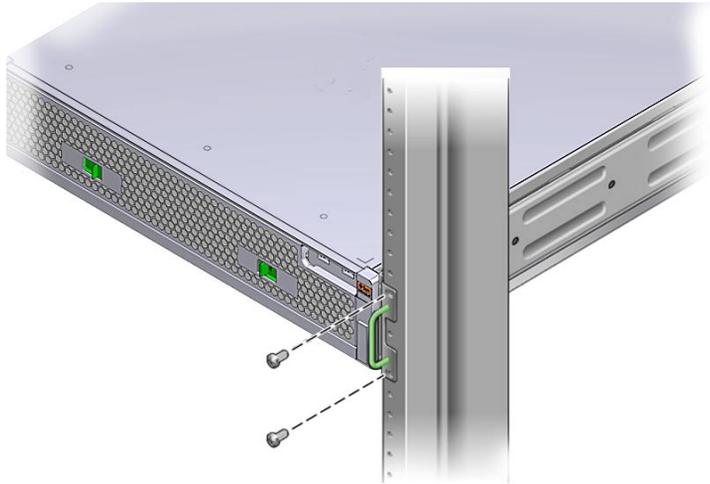
| 番号 | 説明     |
|----|--------|
| 1  | 短い固定部品 |
| 2  | スライド   |
| 3  | 長い固定部品 |

- 14 ラックの反対側のスライドについて、[手順 12](#) および [手順 13](#) を繰り返します。
- 15 スライドをラックの両側の構成部品に完全に押し込み、ストッパーを解除します。
- 16 サーバーに取り付けたレールとラックのスライド構成部品の位置を合わせます。ラックに取り付けられた2つのスライド間の間隔が広すぎる、あるいは狭すぎると感じることがあります。間隔が適切でないと、サーバーに取り付けたレールとラックのスライドとの位置が正確に合わないことがあります。いずれの場合も、長い固定部品および短い固定部品の M6 カラーねじおよびケージナット ([手順 10](#) および [手順 11](#)) を緩め、適切な位置まで内側または外側に移動させたあと、再度サーバーにしっかりと固定します。

- 17 スライドボタンを押して、ラック格納装置の中にサーバーを完全に収納します。



- 18 各側面でねじを2本ずつ使用して、サーバーの側面に取り付けられたハードマウント固定部品の前面をラックの前面に固定します。  
使用しているラックの種類によって、ねじのサイズが異なります。



- 19 必要なケーブルとオプションのケーブルを接続します。  
87 ページの「ケーブルの接続」を参照してください。

#### 参考 関連情報

- 35 ページの「19 インチスライドレールキット(4ポストラック)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## 600 mmハードマウントキット(4ポストラック)の取り付け

次のトピックを参照して、オプションの 600 mm ハードマウントキットを使用し、サーバーを取り付けます。

- 45 ページの「600 mm ハードマウントキット(4ポストラック)」
- 46 ページの「サーバーを取り付ける(4ポスト 600 mm ハードマウントキット)」

## 関連情報

- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## 600 mm ハードマウントキット (4ポストラック)

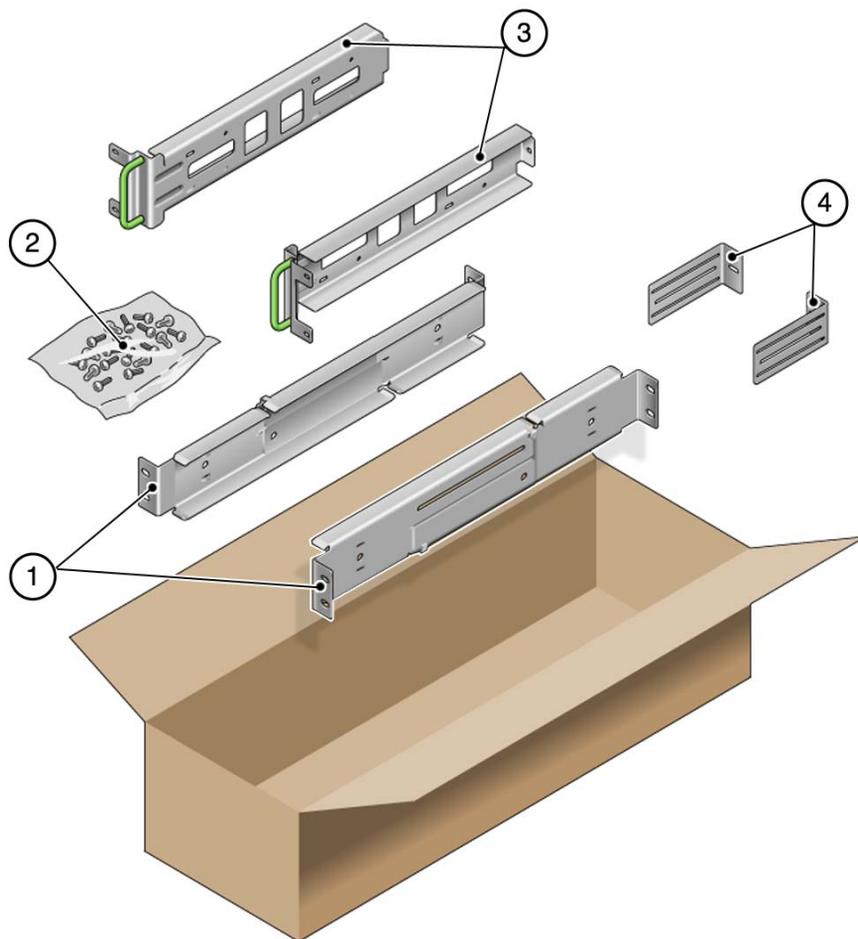


表3 600 mm 4ポストのハードマウントキットの内容

| 番号 | 説明          |
|----|-------------|
| 1  | 調整可能レール(2つ) |
| 2  | ねじ          |
| 3  | 側面レール(2つ)   |
| 4  | 背面フランジ(2つ)  |

表4 600 mm 4ポストハードマウントねじ

| 数量 | 説明                      | 使用箇所                   |
|----|-------------------------|------------------------|
| 12 | M5×7 SEM ねじ             | 側面レール用 8 本、背面フランジ用 4 本 |
| 10 | M5×12.7 mm ねじ           | ラック用 10 本(必要な場合に使用)    |
| 10 | M6×13 mm ねじ             | ラック用 10 本(必要な場合に使用)    |
| 9  | M6 角型クリップナット            | ラック用 9 本(必要な場合に使用)     |
| 12 | 10-32×0.5 インチのプラスマイナスねじ | ラック用 12 本(必要な場合に使用)    |
| 12 | 12-24×0.5 インチのプラスマイナスねじ | ラック用 12 本(必要な場合に使用)    |

## 関連情報

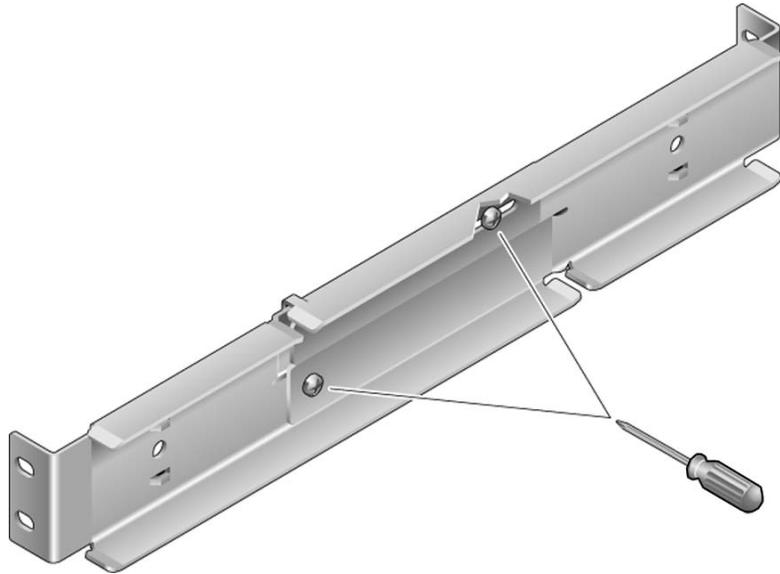
- 46 ページの「サーバーを取り付ける(4ポスト 600 mm ハードマウントキット)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## ▼ サーバーを取り付ける(4ポスト 600 mm ハードマウントキット)

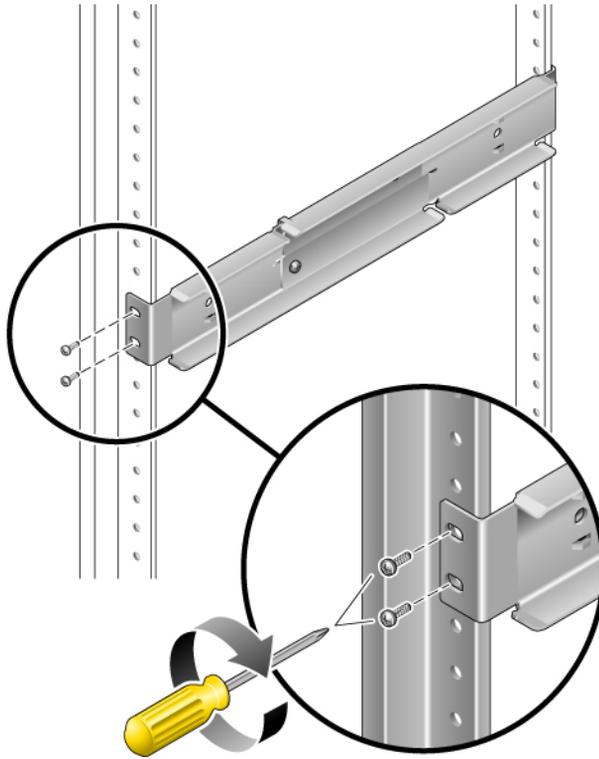
注- 前面レールと背面レールの間隔は、前面レールの外側から背面レールの外側までが 392 mm (15.43 インチ) 以上 504 mm (19.84 インチ) 以下である必要があります。

- 1 必要な工具類を用意します。  
25 ページの「設置に必要な工具」を参照してください。
- 2 サーバーに関する注意事項をお読みください。  
24 ページの「取り扱い上の注意」および 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」を参照してください。

- 3 ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。  
27 ページの「ラックに関する注意事項」 および 28 ページの「ラックを固定する」を参照してください。
- 4 ラックキットから調整可能レールを取り出します。  
45 ページの「600 mm ハードマウントキット (4ポストラック)」を参照してください。
- 5 各調整可能レールの中央にある 2 本のねじを緩めて、調整可能レールを伸ばせるようにします。

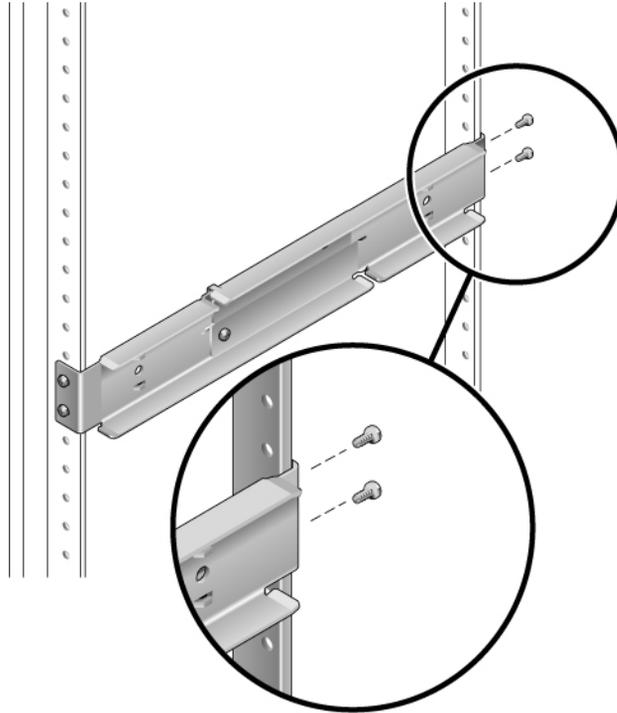


- 調整可能レールの1つをラックの取り付け位置まで持ち上げます。2本のねじを使用して、レールの前面をラックに固定します。  
使用しているラックの種類によって、ねじのサイズが異なります。



- 7 ラックの背面で、2本のねじを使用して調整可能レールの背面をラックに固定します。

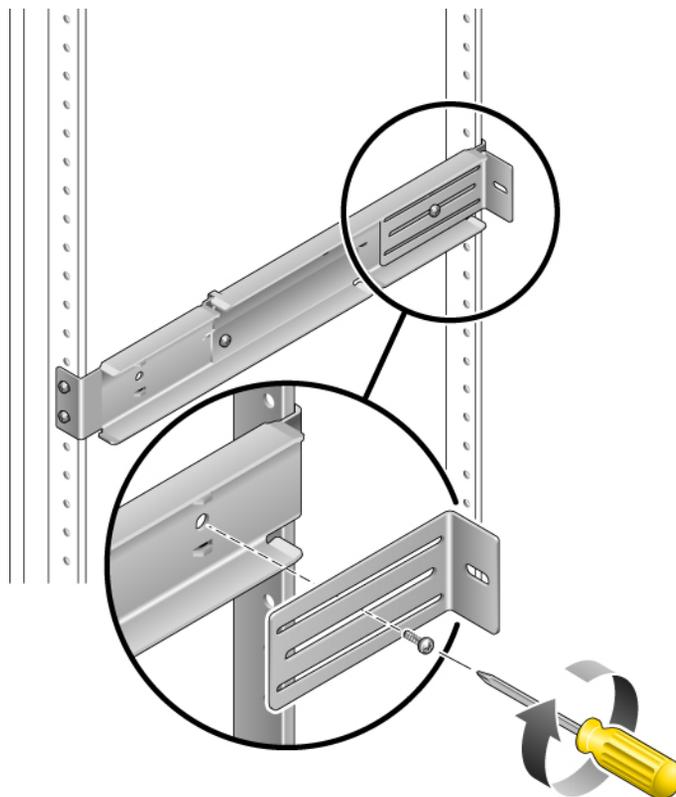
使用しているラックの種類によって、ねじのサイズが異なります。



- 8 各調整可能レールの中央の2本のねじをきつく締めます。
- 9 手順6から手順8を繰り返して、他の調整可能レールをラックに取り付けます。
- 10 ラックキットから背面フランジを取り出します。

- 11 各背面フランジにM5×7SEMねじを1本ずつ使用して、背面フランジを調整可能レールのそれぞれの背面に緩く取り付けます。

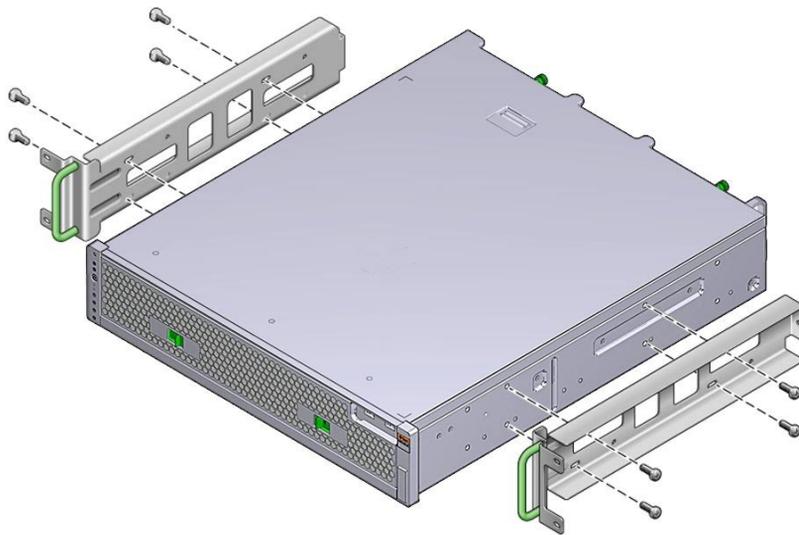
調整可能レールに背面フランジを完全に固定しないでください。このあとの手順でサーバーに合わせてラックの奥行を設定する際に、これらのフランジを使用します。



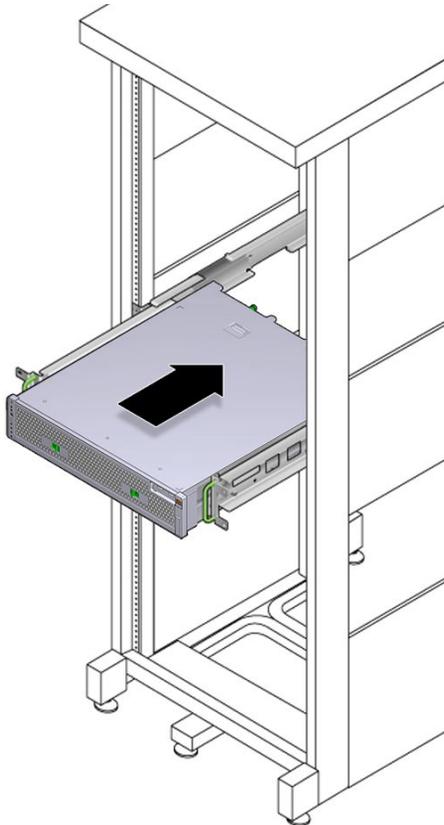
- 12 ラックキットから側面レールを取り出します。

- 13** M5×7 SEMねじを8本(各側面レールに4本ずつ)使用して、側面レールをサーバーの側面に固定します。

側面レールでは、ラックレールのセットバック(ラックの前面からラックレールまでの距離)を調整できます。サーバーを取り付けるラックの種類に応じて、セットバックを50 mm、75 mm、または100 mmにできます。

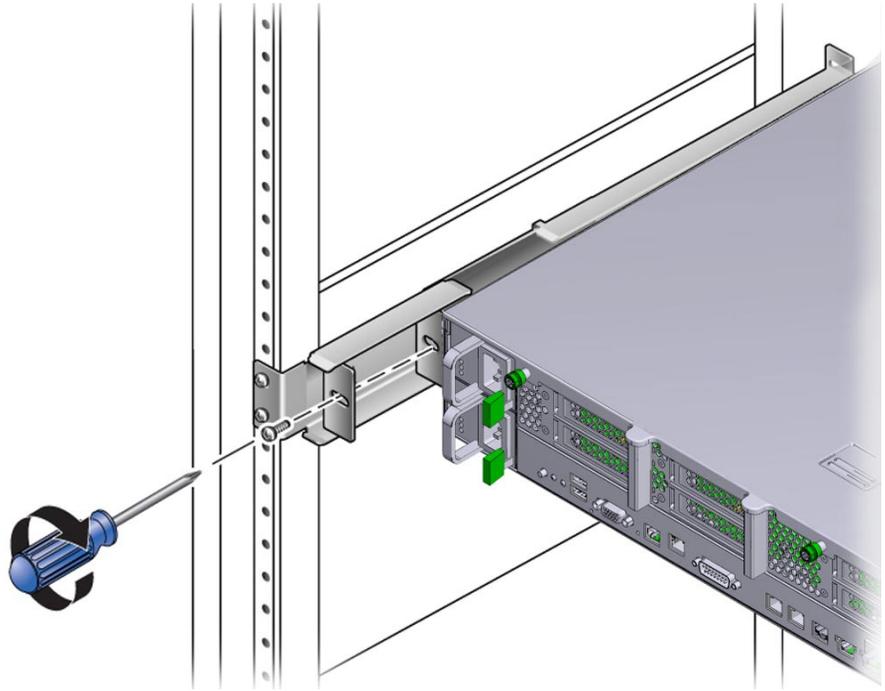


- 14 サーバーをラックまで持ち上げて、サーバーを調整可能レールにスライドさせて挿入します。

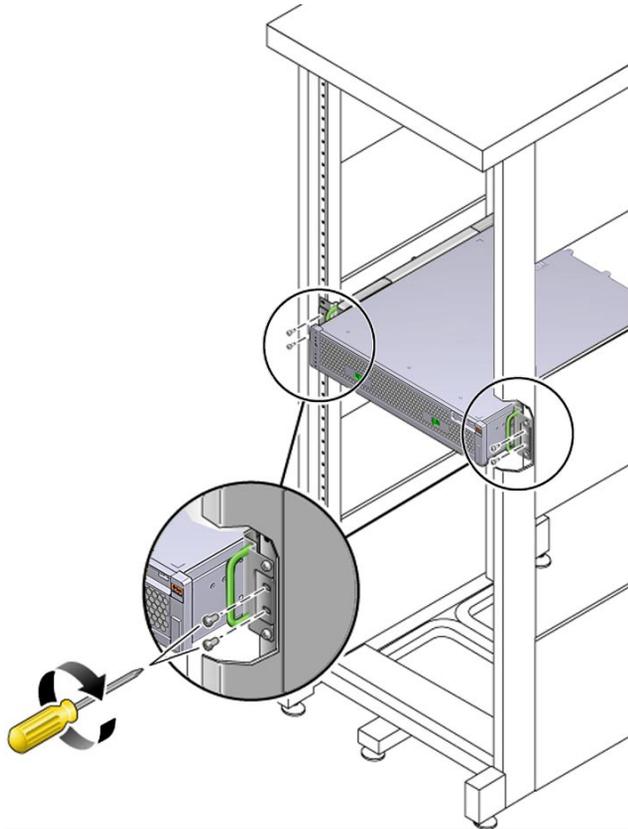


- 15 サーバーをラックの目的の奥行まで押し入れ、サーバーの背面に移動して、サーバーの背面に接するまで背面フランジを押します。  
ラックの奥行が特に浅い場合は、背面フランジの前後を逆にすると、サーバーの背面に接するように取り付けることができます。
- 16 サーバーをラックから取り出します。
- 17 背面フランジをラックの目的の奥行に配置し、各フランジで1本のM5x7 SEMねじをきつく締めて、フランジを調整可能レールに固定します。
- 18 サーバーをラックまで持ち上げて、サーバーを調整可能レールにスライドさせて挿入します。

- 19 サーバーが背面フランジに接するまでサーバーを後方に押し、各背面フランジで M5×7 SEM ねじを 1 本ずつ使用して、サーバーの背面を背面フランジに固定します。



- 20 ラック前面の各側面でねじを2本ずつ使用して、サーバーに取り付けられた側面レールをラックの前面に固定します。  
使用しているラックの種類によって、ねじのサイズが異なります。



- 21 必要なケーブルとオプションのケーブルを接続します。  
87 ページの「ケーブルの接続」を参照してください。

#### 参考 関連情報

- 45 ページの「600 mmハードマウントキット(4ポストラック)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

# サーバーの2ポストラックへの設置

---

ここでは、複数のラックマウントキットを使用してサーバーを2ポスト装置ラックに取り付ける方法について説明します。

| 手順 | 説明                    | リンク  |
|----|-----------------------|--|
| 1. | オプションのコンポーネントを取り付けます。 | <a href="#">26 ページの「オプションコンポーネント」</a>  |
| 2. | 注意事項を確認します。           | <a href="#">27 ページの「ラックに関する注意事項」</a>   |
| 3. | ラックを安定させます。           | <a href="#">28 ページの「ラックを固定する」</a>  |
| 4. | サーバーを2ポストラックに取り付けます。  | <a href="#">56 ページの「19 インチハードマウントキット (2 ポストラック) の取り付け」</a><br><a href="#">64 ページの「19 インチスライドレールキット (2 ポストラック) の取り付け」</a><br><a href="#">76 ページの「23 インチハードマウントキット (2 ポストラック) の取り付け」</a> |

---

## 関連情報

- [55 ページの「サーバーの2ポストラックへの設置」](#)
- [15 ページの「サーバーと設置場所の仕様の確認」](#)
- [23 ページの「設置の準備」](#)
- [29 ページの「サーバーの4ポストラックへの設置」](#)
- [87 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [101 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

## 19インチハードマウントキット(2ポストラック)の取り付け

次のトピックを参照して、オプションの19インチハードマウントラックキットを使用し、サーバーを19インチ幅の2ポストラックに取り付けます。

- 56ページの「19インチハードマウントラックキット(2ポストラック)」
- 58ページの「サーバーを取り付ける(2ポスト19インチハードマウントのラックキット)」

### 関連情報

- 25ページの「設置に必要な工具」
- 24ページの「取り扱い上の注意」
- 27ページの「ラックに関する注意事項」

## 19インチハードマウントラックキット(2ポストラック)

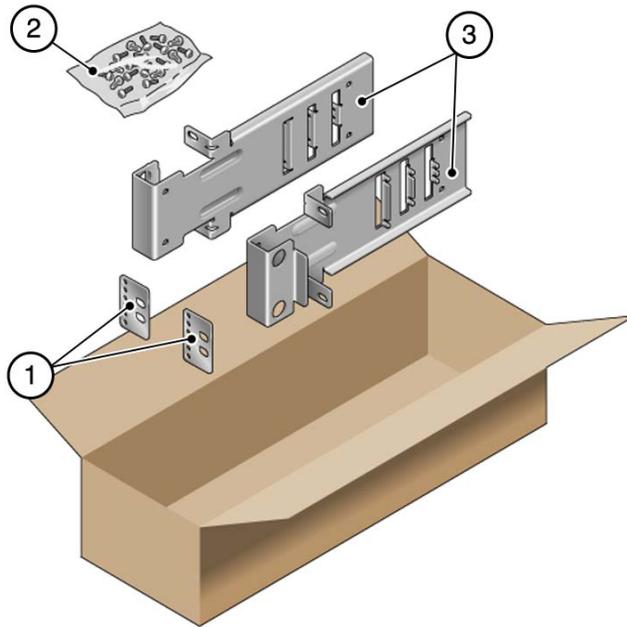


表5 19 インチ2ポストのハードマウントラックキットの内容

| 番号 | 説明          |
|----|-------------|
| 1  | 背面プレート (2つ) |
| 2  | ねじ          |
| 3  | 側面固定部品 (2つ) |

表6 19 インチ2ポストハードマウントラックねじ

| 数量 | 説明                        | 使用箇所                 |
|----|---------------------------|----------------------|
| 10 | M5 x 7 SEM ねじ             | 側面固定部品用 8 本、予備 2 本   |
| 6  | M3 x 8 SEM ねじ             | 背面プレート用 4 本、予備 2 本   |
| 10 | M5 x 12.7 mm ねじ           | ラック用 10 本 (必要な場合に使用) |
| 10 | M6 x 13 mm ねじ             | ラック用 10 本 (必要な場合に使用) |
| 9  | M6 角型クリップナット              | ラック用 9 本 (必要な場合に使用)  |
| 12 | 10-32 x 0.5 インチのプラスマイナスねじ | ラック用 12 本 (必要な場合に使用) |
| 12 | 12-24 x 0.5 インチのプラスマイナスねじ | ラック用 12 本 (必要な場合に使用) |

## 関連情報

- 58 ページの「サーバーを取り付ける (2 ポスト 19 インチハードマウントのラックキット)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## ▼ サーバーを取り付ける (2 ポスト 19 インチハードマウントのラックキット)

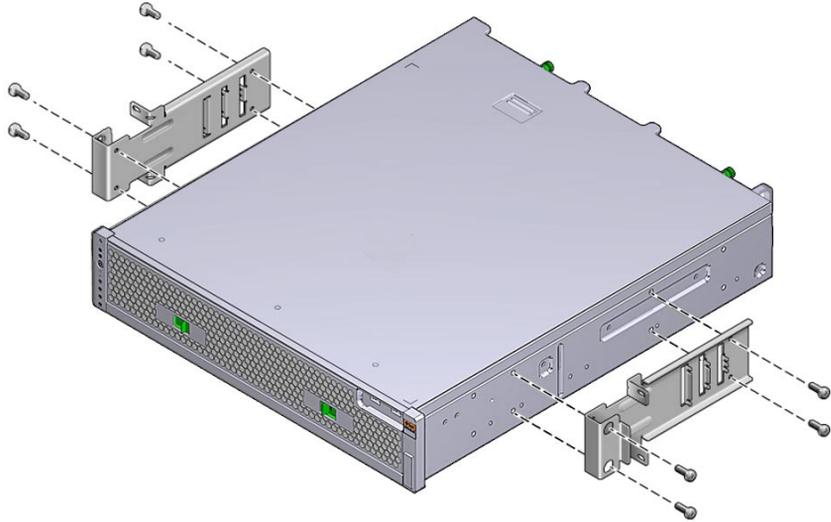
---

注-19 インチ 2 ポストラックマウントキットでは、ラックのウェブ厚(ラックポストの幅)として 76.20 mm (3 インチ)、101.6 mm (4 インチ)、および 127 mm (5 インチ) をサポートしています。

---

- 1 必要な工具類を用意します。  
25 ページの「設置に必要な工具」を参照してください。
- 2 サーバーに関する注意事項をお読みください。  
24 ページの「取り扱い上の注意」および 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」を参照してください。
- 3 ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。  
27 ページの「ラックに関する注意事項」および 28 ページの「ラックを固定する」を参照してください。

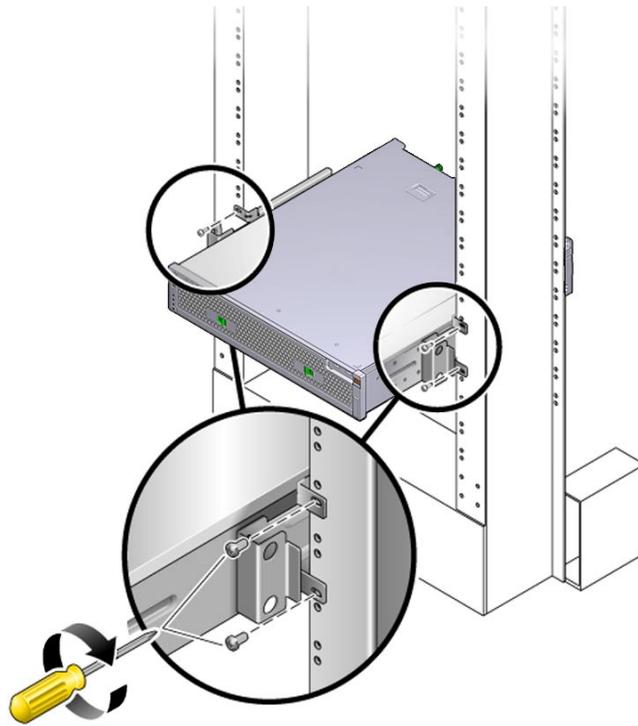
- 4 各側面固定部品に M5×7 SEM ねじを 4 本ずつ使用して、側面固定部品をサーバーの側面に固定します。



- 5 サーバーをラックまで持ち上げます。

- 6 各固定部品にねじを2本ずつ使用して、サーバー前面をラックの前面に固定します。

使用しているラックによって、ねじのサイズが異なります。

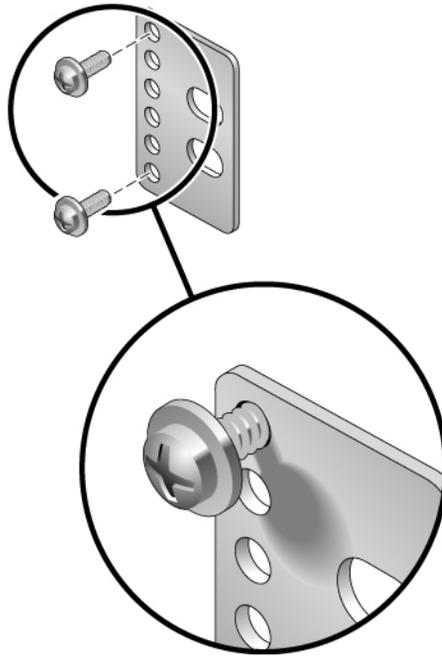


- 7 (オプション)使用環境で特に強い振動が発生する場合は、背面プレートを使用してサーバーをラックにさらに固定します。

背面プレートは、ポストの厚さに応じて、ポストの背面および各側面固定部品の3つのねじ受けセットのいずれかに取り付けます。

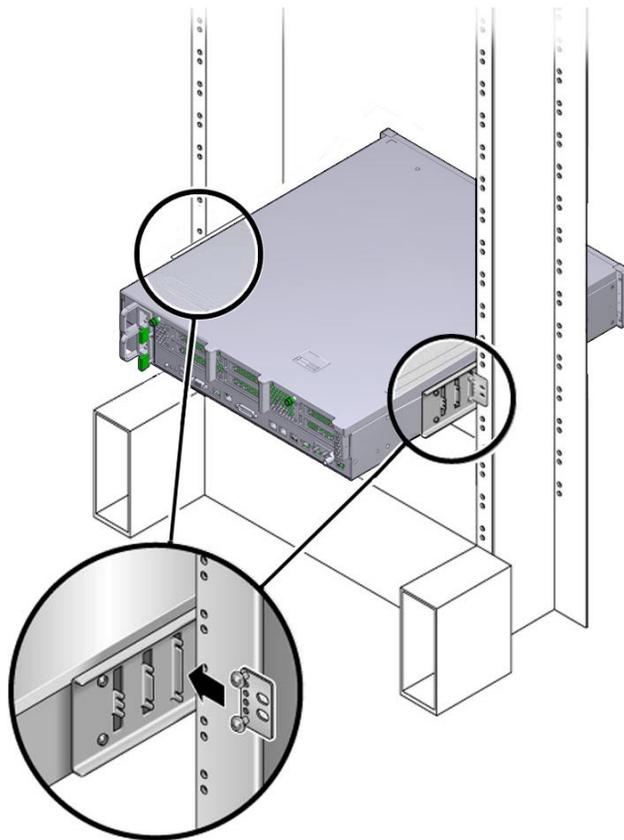
- a. 各背面プレートに **M3×8 SEM** ねじを 2本ずつ使用して、背面プレートの6つの取り付け位置のいずれかにねじを緩く取り付けます。

取り付け位置は、ラック内のレールの厚さによって決まります。たとえば、次の図は、背面プレート上での最適なラック位置用のねじの取り付けを示しています。



- b. バックパネルを内側にスライドさせて、ねじ受けのいずれかのセットにねじがはまるようにします。

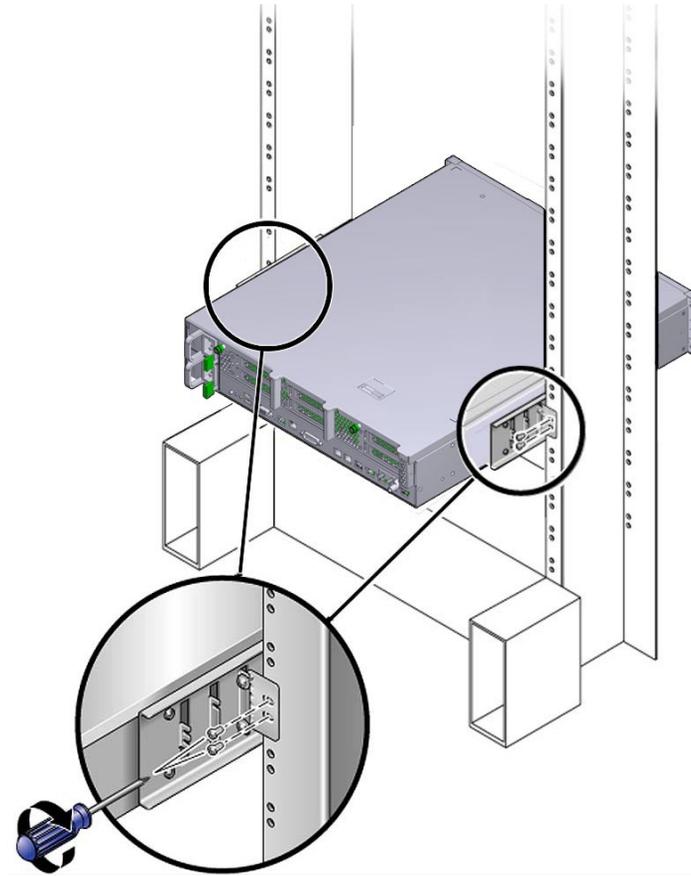
ねじ頭がサーバーの背面側を向き、背面プレートのもう一方の側がラックポストの手前になるようにします。



- c. ねじをきつく締めて、背面プレートを側面固定部品のねじ受けのセットに固定します。

- d. ねじを2本使用して、背面プレートのもう一方の側をポストの背面に固定します。

使用しているラックによって、ねじのサイズが異なります。



- e. 手順aから手順dを繰り返して、ほかのポストにも背面プレートを固定します。
- 8 必要なケーブルとオプションのケーブルを接続します。  
87ページの「ケーブルの接続」を参照してください。

#### 参考 関連情報

- 56ページの「19インチハードマウントラックキット(2ポストラック)」
- 25ページの「設置に必要な工具」
- 24ページの「取り扱い上の注意」
- 27ページの「ラックに関する注意事項」

## 19インチスライドレールキット(2ポストラック)の取り付け

次のトピックを参照して、オプションの19インチスライドレールキットを使用し、サーバーを2ポストラックに取り付けます。

- [64ページの「19インチスライドレールキット\(2ポストラック\)」](#)
- [66ページの「サーバーを取り付ける\(2ポスト19インチスライドレールキット\)」](#)

### 関連情報

- [25ページの「設置に必要な工具」](#)
- [24ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [27ページの「ラックに関する注意事項」](#)

## 19インチスライドレールキット(2ポストラック)

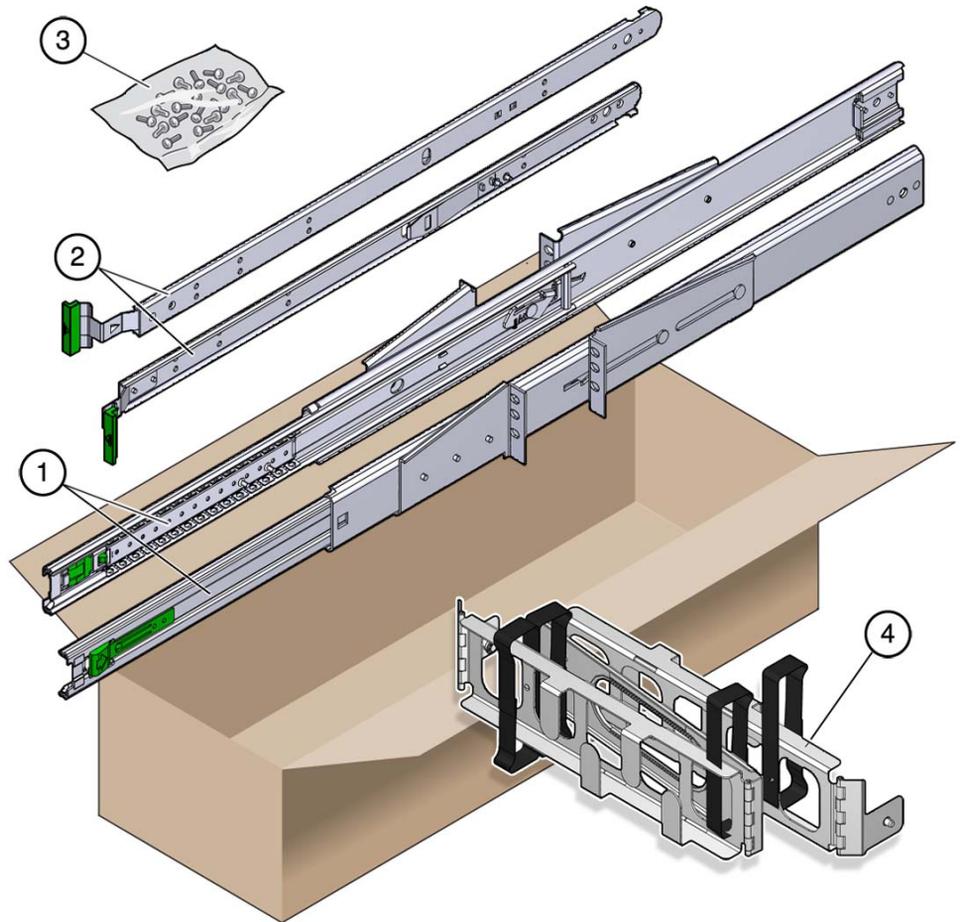


表7 19 インチスライドレールキットの内容

| 番号   | 説明                      |
|------|-------------------------|
| 1    | スライド構成部品 (2つ)           |
| 2    | 内部のレール (2つ)             |
| 3    | ねじ                      |
| 4    | ケーブル管理アーム               |
| 図示なし | M6用および10-32用のねじ受け (各4つ) |

表 8 19 インチスライドレールねじ

| 数量 | 説明                                      | 使用箇所                           |
|----|---|--------------------------------|
| 10 | M4×0.5 mm×5 mm のプラスのなべ頭ねじ               | レール用 8 本、予備 2 本                |
| 10 | M5×12.7 mm ねじ                           | ラック用 10 本 (必要な場合に使用)           |
| 12 | M6×13 mm ねじ                             | ラック用 10 本、予備 2 本               |
| 9  | M6 角型クリップナット                            | ラック用 9 本 (必要な場合に使用)            |
| 10 | 10-32 のカラーねじ (短いねじ 4 本、長いねじ 4 本、予備 2 本) | 10-32 の穴があるラック用 8 本 (必要な場合に使用) |
| 12 | 10-32×0.5 インチのプラスマイナスねじ                 | ラック用 12 本 (必要な場合に使用)           |
| 12 | 12-24×0.5 インチのプラスマイナスねじ                 | ラック用 12 本 (必要な場合に使用)           |

### 関連情報

- 66 ページの「サーバーを取り付ける (2 ポスト 19 インチスライドレールキット)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

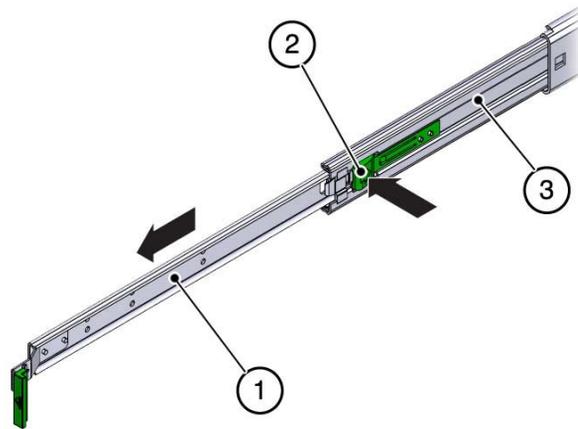
## ▼ サーバーを取り付ける (2 ポスト 19 インチスライドレールキット)

注 - 19 インチ 2 ポストスライドレールマウントキットでは、ラックのウェブ厚 (ラックポストの幅) として 76.20 mm (3 インチ)、101.6 mm (4 インチ)、および 127 mm (5 インチ) をサポートしています。

注 - 前面レールと背面レールの間隔は、前面レールの外側から背面レールの外側までが 392 mm (15.43 インチ) 以上 863.6 mm (34 インチ) 以下である必要があります。

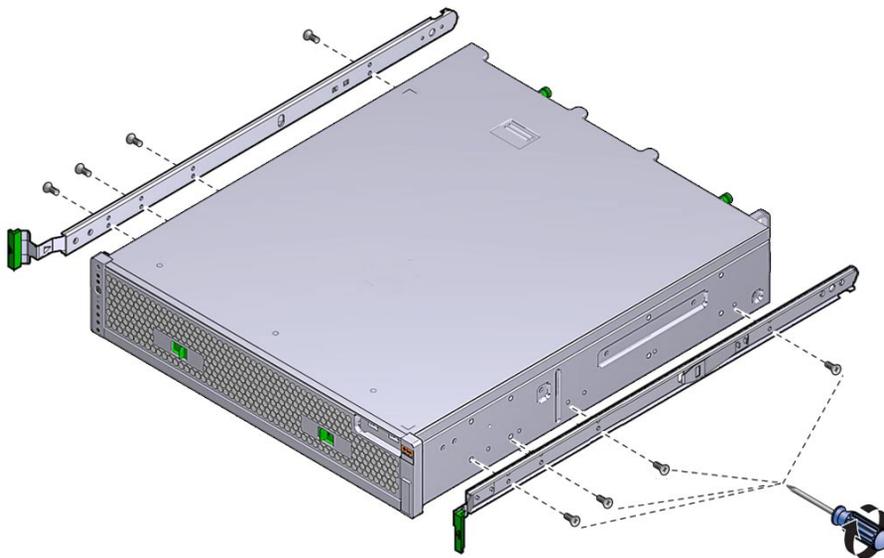
- 1 必要な工具類を用意します。  
25 ページの「設置に必要な工具」を参照してください。
- 2 サーバーに関する注意事項をお読みください。  
24 ページの「取り扱い上の注意」および 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」を参照してください。

- 3 ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。  
27 ページの「ラックに関する注意事項」 および 28 ページの「ラックを固定する」を参照してください。
- 4 ラックキットからスライド構成部品を取り出します。
- 5 各スライド構成部品の緑色のボタンを押し、右側および左側の内部レールをスライドから完全に引き出します。



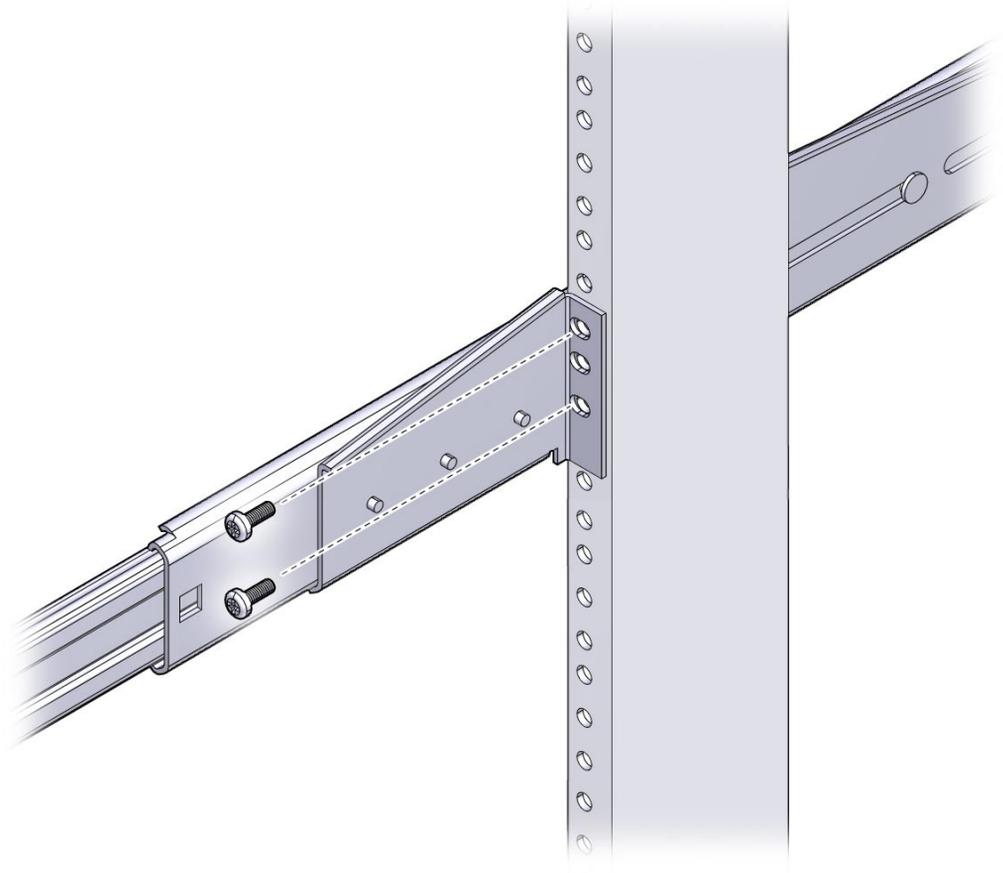
| 番号 | 説明   |
|----|------|
| 1  | レール  |
| 2  | ボタン  |
| 3  | スライド |

- 6 ラックマウントキットの M4x0.5x5 mm プラスなべ頭ねじを 8 本 (各側面に 4 本ずつ) 使用して、各レールをサーバーシャーシの側面に固定します。

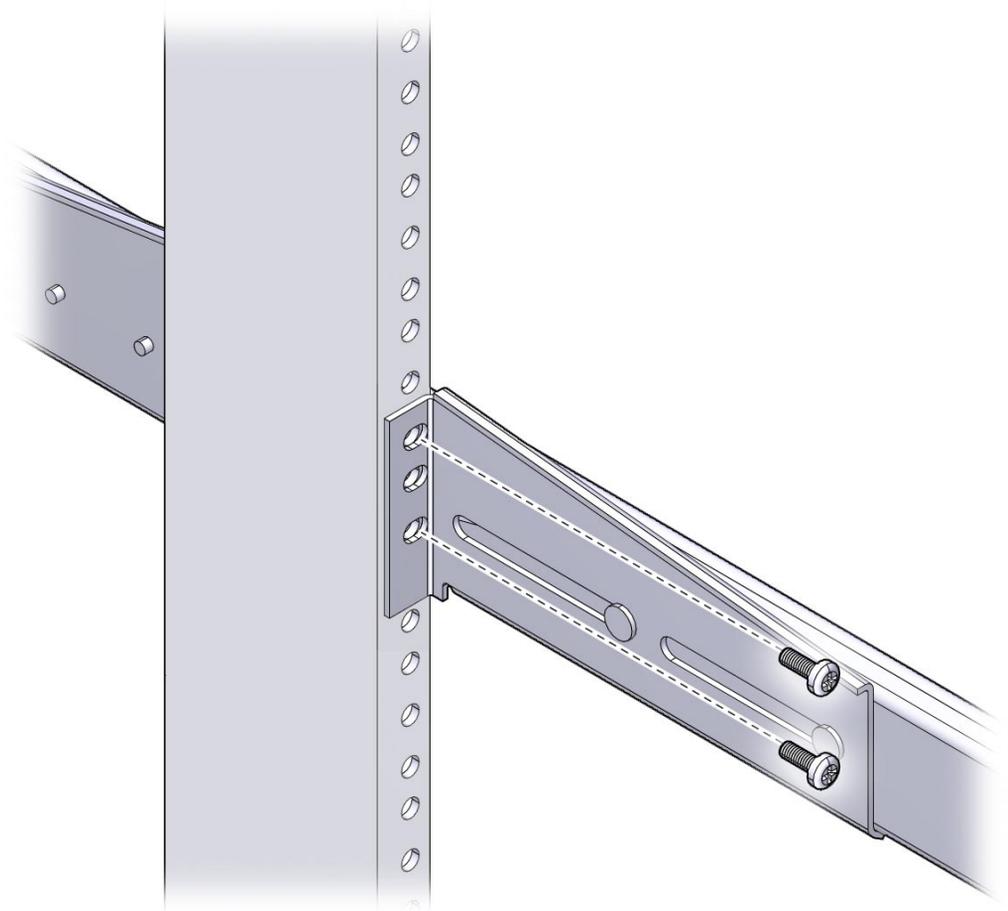


- 7 ラックマウントキットからラック固定部品 (前面および背面) を取り出します。

- 8 前面側の固定部品をそれぞれ持ち上げてラックの「前面」の取り付け位置に合わせ、各ラックポストの前面側に取り付けます。
- 各固定部品の取り付けには、M5×12.7 mm ねじ 2 本と M6×13 mm ねじ 2 本を使用します。固定部品がしっかり取り付けられるまでねじを締めますが、あとで調整するために緩みを残しておきます。



- 9 背面側の固定部品をそれぞれ持ち上げてラックの「背面」の取り付け位置に合わせ、各ラックポストの背面側に取り付けます。
- 各固定部品の取り付けには、手順8と同様に、M5×12.7 mm ねじ2本と M6×13 mm ねじ2本を使用します。固定部品がしっかり取り付けられるまでねじを締めますが、あとで調整するために緩みを残しておきます。

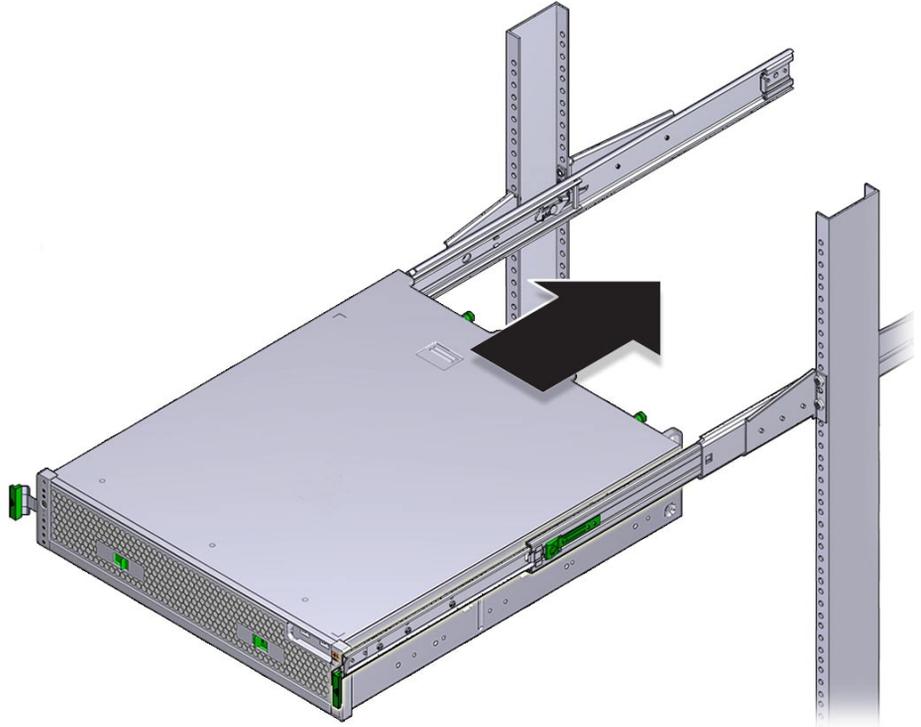


注 - ラックに 10-32 の穴がある場合は、10-32 のカラーねじおよび 10-32 のねじ受けを使用してください。

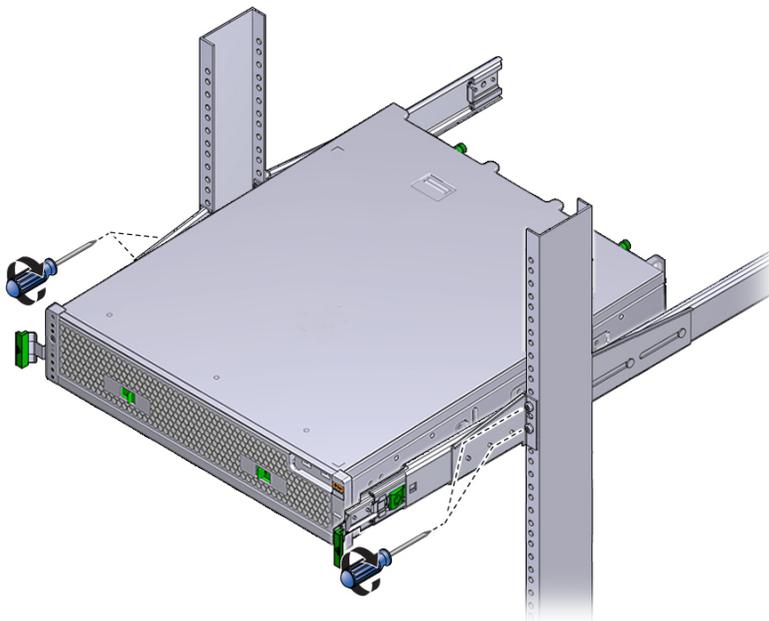
- 10 サーバーに取り付けたレールとラックのスライド構成部品の位置を合わせます。ラックにマウントされた2つのスライドの間隔が大きすぎたり、小さすぎる場合があります。間隔が適切でないと、サーバーに取り付けたレールとラックのスライドとの

位置が正確に合わないことがあります。いずれの場合も、前面側および背面側の固定部品のねじを緩め(手順 8 および手順 9)、固定部品を適切な位置まで内側または外側に移動させたあと、再度きつく締めます。

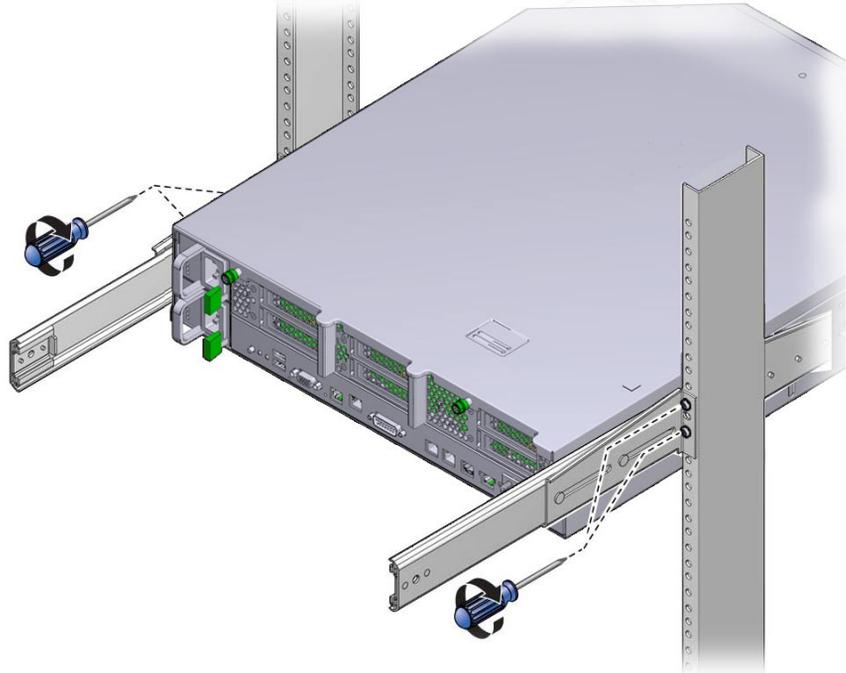
- 11 スライドボタンを押して、ラック格納装置の中にサーバーを完全に収納します。



- 12 前面側の固定部品のねじを完全に締め付けます。

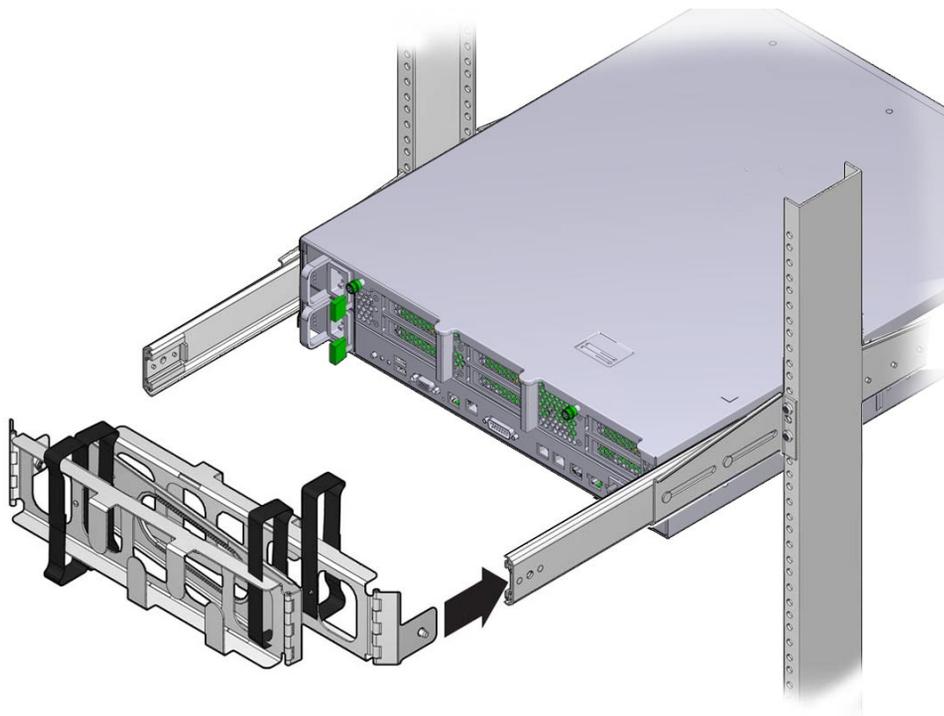


- 13 背面側の固定部品のねじを完全に締め付けます。



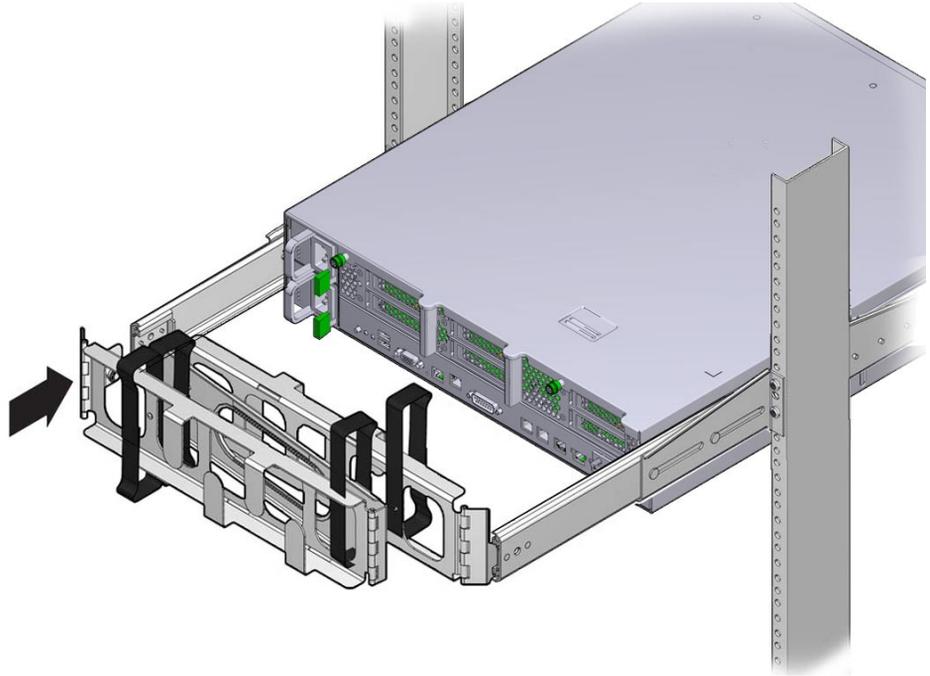
- 14 **CMA** を正しい側面の正しいレール (レールと **CMA** のラベルに注意します) に取り付けます。

レールと **CMA** には、どちらにもラベルが付いています。CMA の矢印の付いている側を右側の内部レールに取り付けます。CMA のもう一方の側を外側の部品に取り付けます。



**15** 左側のレールに CMA を取り付けます。

レールと CMA には、どちらにもラベルが付いています。CMA の矢印の付いている側を左側の内部レールに取り付けます。CMA のもう一方の側を外側の部品に取り付けます。



**16** 必要なケーブルとオプションのケーブルを接続します。  
87 ページの「ケーブルの接続」を参照してください。

参考 関連情報

- 64 ページの「19 インチスライドレールキット (2 ポストラック)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## 23 インチハードマウントキット(2ポストラック)の取り付け

次のトピックを参照して、オプションの23インチハードマウントキットを使用し、サーバーを2ポストラックに取り付けます:

- [76 ページの「23 インチハードマウントキット\(2ポストラック\)」](#)
- [78 ページの「サーバーの取り付け\(23 インチハードマウントキット\)」](#)

### 関連情報

- [25 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [24 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [27 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

## 23 インチハードマウントキット(2ポストラック)

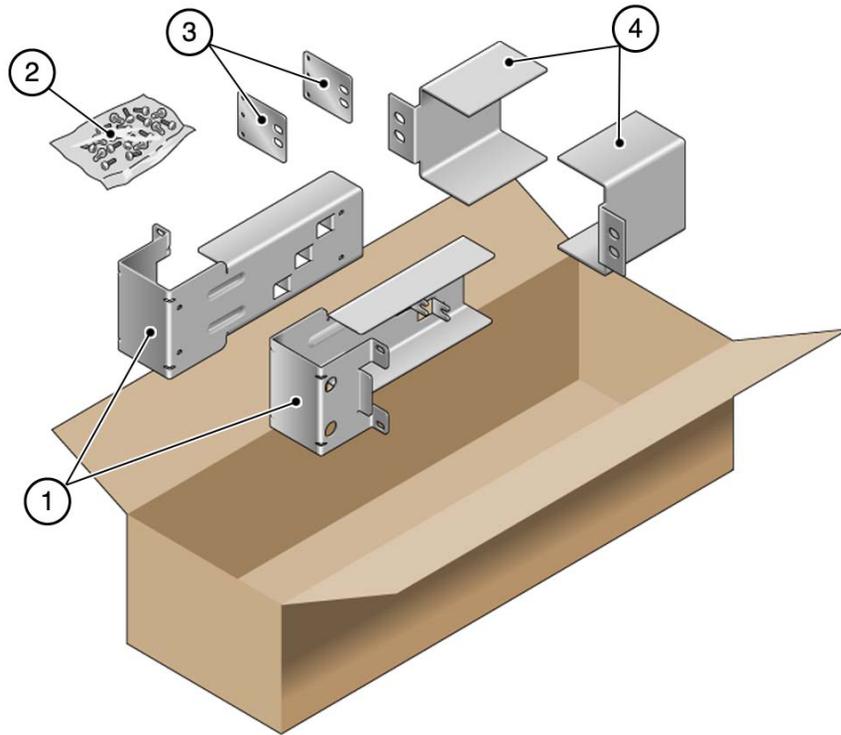


表9 12 インチハードマウントキットの内容

| 番号 | 説明          |
|----|-------------|
| 1  | 側面固定部品 (2つ) |
| 2  | ねじ          |
| 3  | 背面プレート (2つ) |
| 4  | レールガイド (2つ) |

表10 23 インチラックマウントねじ

| 数量 | 説明            | 使用箇所                    |
|----|---------------|-------------------------|
| 10 | M5 x 7 SEM ねじ | 側面固定部品用 8 本、背面プレート用 2 本 |
| 10 | M5×12.7 mm ねじ | ラック用 10 本 (必要な場合に使用)    |
| 10 | M6×13 mm ねじ   | ラック用 10 本 (必要な場合に使用)    |
| 9  | M6 角型クリップナット  | ラック用 9 本 (必要な場合に使用)     |

表 10 23 インチラックマウントねじ (続き)

| 数量 | 説明                      | 使用箇所                |
|----|-------------------------|---------------------|
| 12 | 10-32×0.5 インチのプラスマイナスねじ | ラック用 12 本(必要な場合に使用) |
| 12 | 12-24×0.5 インチのプラスマイナスねじ | ラック用 12 本(必要な場合に使用) |

## 関連情報

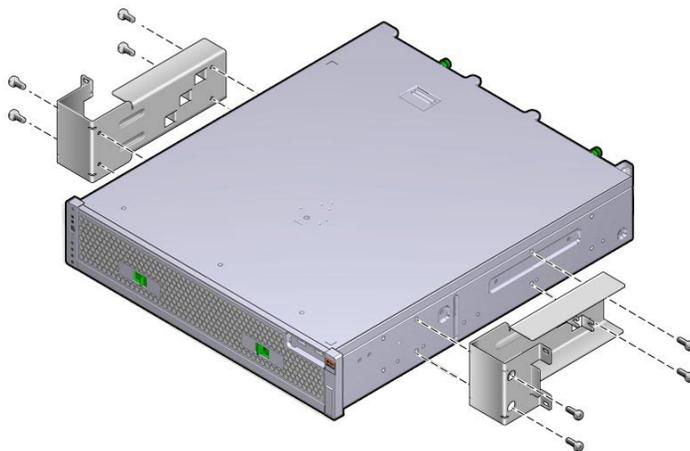
- 78 ページの「サーバーの取り付け (23 インチハードマウントキット)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」

## ▼ サーバーの取り付け (23 インチハードマウントキット)

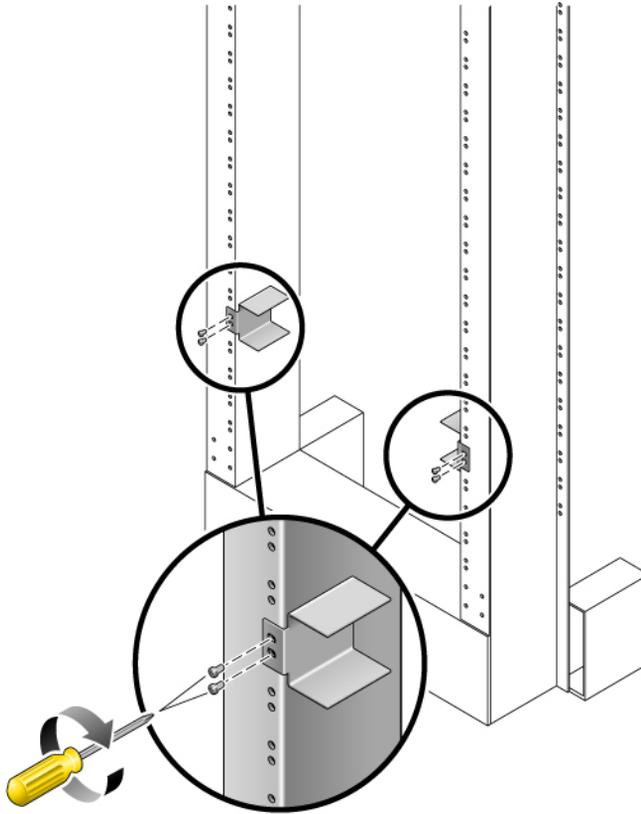
注-23 インチ 2 ポストラックマウントキットでは、ラックのウェブ厚(ラックポストの幅)として 76.20 mm (3 インチ)、101.6 mm (4 インチ)、および 127 mm (5 インチ) をサポートしています。

- 1 必要な工具類を用意します。  
25 ページの「設置に必要な工具」を参照してください。
- 2 サーバーに関する注意事項をお読みください。  
24 ページの「取り扱い上の注意」および 25 ページの「静電気放電に関する注意事項」を参照してください。
- 3 ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。  
27 ページの「ラックに関する注意事項」および 28 ページの「ラックを固定する」を参照してください。

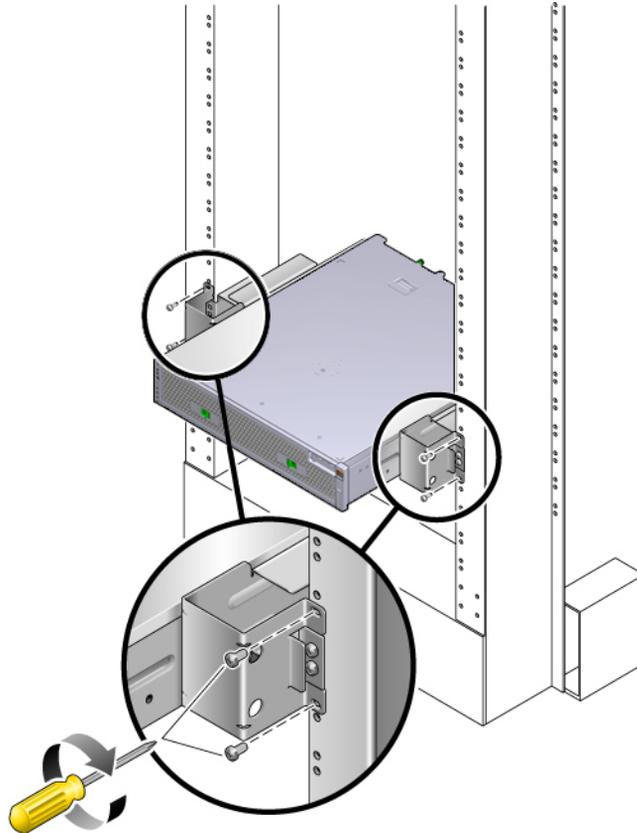
- 4 **M5 x 7 SEM** ねじを **8本** (各側面固定部品に **4本**ずつ) 使用して、側面固定部品をサーバーの側面に固定します。



- 5 レールガイドを持ち上げてラックの取り付け位置の高さに合わせ、ねじを2本ずつ使用して両方のレールガイドをラックに固定します。  
使用しているラックの種類によって、ねじのサイズが異なります。



- 6 サーバーをラックまで持ち上げて、サーバーをレールガイドにスライドさせて挿入します。



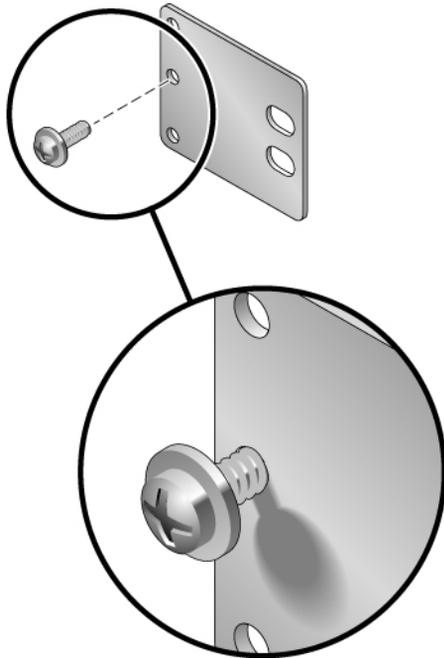
- 7 各側面でねじを2本ずつ使用して、サーバーの各側面固定部品をラックの前側に固定します。  
使用しているラックの種類によって、ねじのサイズが異なります。

- 8 (オプション)使用環境で特に強い振動が発生する場合は、背面プレートを使用してサーバーをラックにさらに固定します。

背面プレートは、ポストの背面および各側面固定部品の3つのねじ受けのいずれかに取り付けます。ポストの厚さに応じて、使用するねじ受けを選択してください。

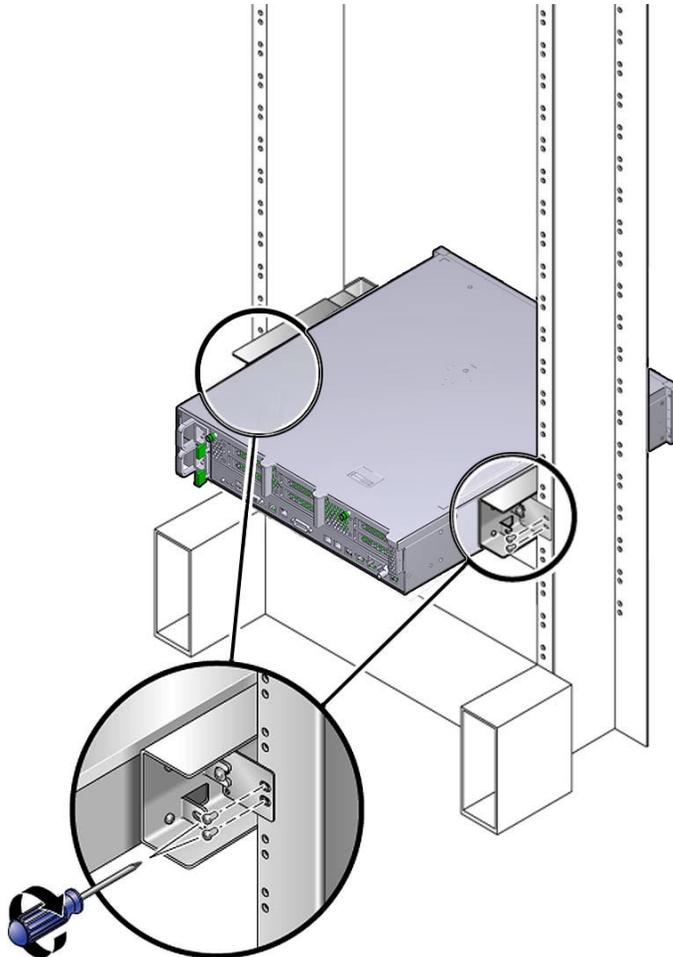
- a. 各背面プレートで **M5x7SEM**ねじを1本ずつ使用して、背面プレートの3つの取り付け位置のいずれかにねじを緩く取り付けます。

取り付け位置は、ラック内のレールの厚さによって決まります。たとえば、次の図は、背面プレートの真ん中のラック位置へのねじの取り付けを示しています。





- d. ねじを2本使用して、背面プレートのもう一方の側をポストの背面に固定します。



使用しているラックによって、ねじのサイズが異なります。

- e. 手順 a から手順 d を繰り返して、ほかのポストにも背面プレートを固定します。
- 9 必要なケーブルとオプションのケーブルを接続します。  
87 ページの「ケーブルの接続」を参照してください。

参考 関連情報

- 76 ページの「23 インチハードマウントキット (2 ポストラック)」
- 25 ページの「設置に必要な工具」
- 24 ページの「取り扱い上の注意」
- 27 ページの「ラックに関する注意事項」



# ケーブルの接続

---

サーバーの電源を入れる前に、次のタスクを実行して、ネットワークおよびシリアルポートを接続して構成します。

| 手順 | 説明                          | リンク                          |
|----|-----------------------------|------------------------------|
| 1. | サーバー接続を計画し、構成します。           | 87 ページの「データケーブルおよび管理ケーブルの接続」 |
| 2. | (オプション) コネクタの説明とピン配列を確認します。 | 92 ページの「ポートの識別」              |

## 関連情報

- 7 ページの「サーバーの概要」
- 15 ページの「サーバーと設置場所の仕様の確認」
- 23 ページの「設置の準備」
- 29 ページの「サーバーの 4 ポストラックへの設置」
- 55 ページの「サーバーの 2 ポストラックへの設置」
- 101 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

## データケーブルおよび管理ケーブルの接続

次のトピックでは、サーバーの電源を入れる前に、ケーブルを接続する必要があるポートについて説明します。

| 手順 | 説明                       | リンク                             |
|----|--------------------------|---------------------------------|
| 1. | サーバーの設置に必要な接続を計画します。     | 88 ページの「使用可能な接続」                |
| 2. | SP にケーブルを接続します。          | 90 ページの「SP にケーブルを接続する」          |
| 3. | Ethernet ポートにケーブルを接続します。 | 91 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」 |

| 手順 | 説明                      | リンク   |
|----|-------------------------|---|
| 4. | 必要に応じて、他のデータケーブルを接続します。 | <a href="#">91 ページの「(オプション) その他のデータケーブルを接続する」</a> |

## 関連情報

- [92 ページの「ポートの識別」](#)
- [13 ページの「背面パネルのコンポーネント \(設置\)」](#)

## 使用可能な接続

サーバーの電源を入れる前に、SP とサーバーを接続します。

このトピックの情報を参照して、これらの接続を計画します。必要なネットワークアドレスとケーブルを用意します。

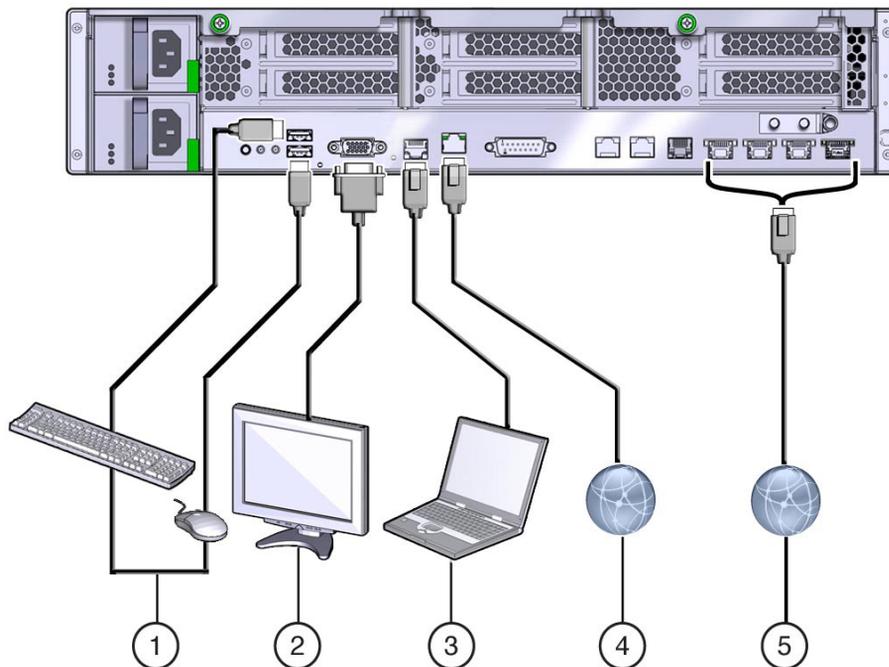


注意 - NEBS の雷に関する要件に準拠するため、すべての I/O 接続 (Ethernet および電源接続を除く) でシールドケーブルを使用し、シールドの両端を接地する必要があります。



注意 - すべてのデータケーブルの接続を建物内のインタフェースに制限し、施設外とつながっている配線と分離する必要があります。プライマリプロテクタを使用してもこの制限を除外することはできません。これらの接続は、施設外に接続するインタフェースまたはその配線に金属的に接続しないでください。

次の図と表に、使用可能なポートを説明し、それらを使用するために何が必要かを示します。



| 番号 | ポート     | 説明  | 次のものがが必要です:   |
|----|---------|---|---|
| 1  | 2個のUSB  | SP への USB 接続を提供します。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ USB キーボード</li> <li>■ USB マウス</li> </ul> <p>ピン配列情報については、96 ページの「USB ポート」を参照してください。</p>  |
| 2  | VGA     | SP へのビデオ接続を提供する。<br>注-このポートは、インストールまたは保守手順時に一時的に使用するためのもので、最大ケーブル長制限は6mです。  | <p>VGA モニタおよびケーブル (6m 以下)。</p> <p>ピン配列情報については、96 ページの「ビデオポート」を参照してください。</p>   |
| 3  | SER MGT | RJ-45 コネクタ経由のシリアル接続。このポートは SP へのローカル接続を行ない、Oracle ILOM との CLI のやりとりを制限されます。<br>デフォルトの設定は次のとおりです: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1</li> <li>■ 9600 ボー</li> <li>■ ハードウェアフロー制御を無効化 (CTS/RTS)</li> <li>■ ソフトウェアフロー制御を無効化 (XON/XOFF)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 端末デバイスとは、端末、端末サーバーへの接続、または端末エミュレーションソフトウェアが動作しているノートパソコンなどのコンピュータのことです。</li> <li>■ 端末デバイスを SER MGT ポートに接続するためのケーブル。</li> </ul> <p>ピン配列情報については、92 ページの「SER MGT ポート」を参照してください。</p> |

| 番号 | ポート       | 説明   | 次のものが便利です:   |
|----|-----------|--|--|
| 4  | NET MGT   | <p>RJ-45 コネクタ経由の 10/100BASE-T Ethernet 接続。このポートは Oracle ILOM CLI および Web インタフェースを使用した SP へのリモート接続をサポートします。</p> <p>このポートはデフォルトで、DHCP または IPv6 ルーターを使用して自動的に IP アドレスを取得するように構成されています。代わりに、静的 IP アドレスをこのポートに割り当てることもできます。</p> <p>このポートを使用するには、そのネットワーク設定が構成されている必要があります。構成されたら、ブラウザまたは Secure shell で NET MGT ポート IP アドレスを使用して、SP にログインします。</p> | <p>次のものが便利です:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NET MGT ポートをネットワークに接続するための Ethernet ケーブル。</li> <li>このポートの IP アドレス (DHCP または静的アドレスで必要)</li> </ul> <p>ピン配列情報については、<a href="#">93 ページ</a>の「NET MGT ポート」を参照してください。</p> <p>注- 環境で DHCP サービスを提供していない場合は、まず SER MGT ポートを使用して、NET MGT ポートパラメータを構成します。</p> |
| 5  | NET (0-3) | <p>4 つの 10 ギガビット Ethernet ポートを使用して、サーバーをネットワークに接続できます。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>NET 0 ポートをネットワークに接続するための Ethernet ケーブル。</li> <li>IP アドレスなどのネットワークパラメータ (DHCP サービスによって提供されるか、OS で静的アドレスを割り当てられる)</li> <li>NET 1-3 への追加の接続などに必要な追加のケーブルや Ethernet アドレス。</li> </ul> <p>ピン配列情報については、<a href="#">94 ページ</a>の「ギガビット Ethernet ポート」を参照してください。</p>           |

## 関連情報

- 90 ページの「SP にケーブルを接続する」
- 91 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」
- 91 ページの「(オプション) その他のデータケーブルを接続する」
- 92 ページの「ポートの識別」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」

## ▼ SP にケーブルを接続する

- 次の SP 接続のうち、環境で動作する接続を判断し、接続を確立します:
  - SER MGT ポート
  - NET MGT ポート
  - VGA ビデオおよび USB キーボードおよびマウス

これらの SP 接続の任意の組み合わせを構成できます。[88 ページ](#)の「使用可能な接続」を参照してください。

---

注-VGA ビデオポートは、インストールまたは保守手順時に一時的に使用するための  
のもので、最大ケーブル長制限は6mです。

---

#### 参考 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 91 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」
- 91 ページの「(オプション) その他のデータケーブルを接続する」
- 92 ページの「ポートの識別」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」

## ▼ Ethernet ポートにケーブルを接続する

サーバーが OS を実行すると、これらの接続がサーバーへの Ethernet アクセスを提供  
します。94 ページの「ギガビット Ethernet ポート」を参照してください。

---

注-Oracle ILOM サイドバンド管理機能により、これらの Ethernet ポートの1つを使用  
すると、SP にアクセスできます。手順については、『サーバー管理』を参照して  
ください。

---

- 1 カテゴリ 6(またはそれ以上)のケーブルを、ネットワークスイッチまたはハブから  
シャーシの背面にある **Ethernet ポート 0 (NET0)** に接続します。
- 2 (オプション) カテゴリ 6 以上のケーブルを、ネットワークスイッチまたはハブから残  
りの **Ethernet** ポートに接続します。

#### 参考 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 90 ページの「SP にケーブルを接続する」
- 91 ページの「(オプション) その他のデータケーブルを接続する」
- 92 ページの「ポートの識別」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」

## ▼ (オプション) その他のデータケーブルを接続する

- インストールにオプションの PCIe カード、USB デバイス、またはアラームが含まれ  
ている場合は、それらのデバイスへの適切な接続を行ないます。  
サーバーオプションに基づいて、これらを接続するためのケーブルと機器を用意し  
ます:

- PCIe カード - PCIe デバイスのドキュメントを参照
- USB デバイス - 96 ページの「USB ポート」を参照
- ビデオ - 96 ページの「ビデオポート」を参照
- アラーム - 98 ページの「アラームポート」

#### 参考 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 90 ページの「SP にケーブルを接続する」
- 91 ページの「Ethernet ポートにケーブルを接続する」
- 92 ページの「ポートの識別」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」

## ポートの識別

次のトピックでは、コネクタとピン配列について説明しています。ポートの位置については、13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」を参照してください。

- 92 ページの「SER MGT ポート」
- 93 ページの「NET MGT ポート」
- 94 ページの「ギガビット Ethernet ポート」
- 96 ページの「USB ポート」
- 96 ページの「ビデオポート」
- 98 ページの「アラームポート」

## 関連情報

- 87 ページの「データケーブルおよび管理ケーブルの接続」

## SER MGT ポート

SER MGT RJ-45 ポートは背面パネルにあり、SP への TIA/EIA-232 シリアル Oracle/Cisco 標準接続を提供します。DTE 間の通信では、標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45/DB-9 クロスアダプタを使用すると、必要なヌルモデム構成を実現できます。

デフォルトでは、このポートは次のパラメータで構成されています:

- 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
- 9600 ボー
- ハードウェアフロー制御を無効化 (CTS/RTS)

- ソフトウェアフロー制御を無効化 (XON/XOFF)



| ピン | 信号の説明     | ピン | 信号の説明     |
|----|-----------|----|-----------|
| 1  | 送信可       | 5  | アース       |
| 2  | データキャリア検出 | 6  | 受信データ     |
| 3  | 送信データ     | 7  | データ端末レディー |
| 4  | アース       | 8  | 送信要求      |



注意- このポートにモデムを接続しないでください。

## 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」
- 93 ページの「NET MGT ポート」
- 94 ページの「ギガビット Ethernet ポート」
- 96 ページの「USB ポート」
- 96 ページの「ビデオポート」
- 98 ページの「アラームポート」

## NET MGT ポート

NET MGT RJ-45 ポートはバックパネルにあり、SP へのオプションの Ethernet 接続を提供します。NET MGT ポートは、Oracle ILOM SP へのオプションの接続です。サービスプロセッサのネットワーク管理ポートでは、10/100 BASE-T 接続用に RJ-45 ケーブルを使用します。DHCP サーバーを使用しないネットワークでは、SER MGT ポートを通してネットワーク設定を構成するまで、このポートにアクセスできません。このポートでは、ギガビットネットワークへの接続はサポートされていません。



| ピン | 信号の説明   | ピン | 信号の説明   |
|----|---------|----|---------|
| 1  | 送信データ + | 5  | 接続なし    |
| 2  | 送信データ - | 6  | 受信データ - |
| 3  | 受信データ + | 7  | 接続なし    |
| 4  | 接続なし    | 8  | 接続なし    |

## 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」
- 92 ページの「SER MGT ポート」
- 94 ページの「ギガビット Ethernet ポート」
- 96 ページの「USB ポート」
- 96 ページの「ビデオポート」
- 98 ページの「アラームポート」

## ギガビット Ethernet ポート

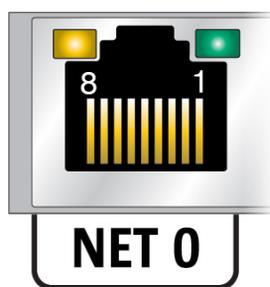
サーバーには、サーバーの背面パネルの左から右に、NET 3、NET 2、NET 1、および NET 0 のラベルの付いた、4 つの RJ-45 10 ギガビット Ethernet (10GbE) ネットワークコネクタがあります。これらのポートを使用して、サーバーをネットワークに接続できます。

各 NET ポートの上にある LED は、この表に示されているように、ポートごとに、左側がリンク/動作状態インジケータ、右側が速度インジケータです。

| 接続タイプ         | IEEE 用語    | 速度 LED の色 | 転送速度       |
|---------------|------------|-----------|------------|
| ファスト Ethernet | 100BASE-TX | 消灯        | 100M ビット/秒 |

| 接続タイプ             | IEEE用語     | 速度 LED の色 | 転送速度         |
|-------------------|------------|-----------|--------------|
| ギガビット Ethernet    | 1000BASE-T | オレンジ      | 1000M ビット/秒  |
| 10 ギガビット Ethernet | 10GBASE-T  | 緑         | 10000M ビット/秒 |

注 - Oracle ILOM サイドバンド管理機能を使用すると、これらのポートの1つを介して SP にアクセスできます。手順については、『サーバー管理』を参照してください。



| ピン | 信号の説明       | ピン | 信号の説明       |
|----|-------------|----|-------------|
| 1  | 送信/受信データ 0+ | 5  | 送信/受信データ 2- |
| 2  | 送信/受信データ 0- | 6  | 送信/受信データ 1- |
| 3  | 送信/受信データ 1+ | 7  | 送信/受信データ 3+ |
| 4  | 送信/受信データ 2+ | 8  | 送信/受信データ 3- |

## 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」
- 92 ページの「SER MGT ポート」
- 93 ページの「NET MGT ポート」
- 96 ページの「USB ポート」
- 96 ページの「ビデオポート」
- 98 ページの「アラームポート」

## USB ポート

サーバー前面から2つのUSBポート、背面から2つのUSBポートを利用できます。USBポートは、ホットプラグをサポートします。サーバーの動作中でも、サーバーの動作に影響を与えることなくUSBケーブルや周辺デバイスを接続および切断できます。

---

注-サーバーの最高速度のUSBポートに接続可能なUSBケーブルの長さは最大5mです。

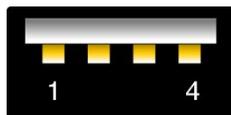
---



---

注-4つのUSBコントローラ(2つのポートは前面、2つのポートは背面)のそれぞれに最大126台のデバイスを接続でき、1つのサーバーあたり合計504台のUSBデバイスとなります。

---



| ピン | 信号の説明  | ピン | 信号の説明 |
|----|--------|----|-------|
| 1  | +5V 電源 | 3  | データ+  |
| 2  | データ-   | 4  | アース   |

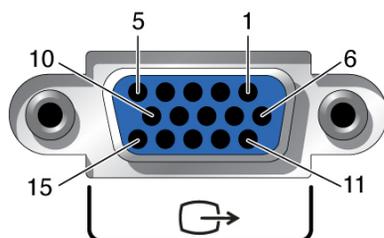
### 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント(設置)」
- 92 ページの「SER MGT ポート」
- 93 ページの「NET MGT ポート」
- 94 ページの「ギガビット Ethernet ポート」
- 96 ページの「ビデオポート」
- 98 ページの「アラームポート」

## ビデオポート

サーバーには、背面パネルに15ピンのVGAビデオポートが1つあります。HDB-15ビデオケーブルを使用してビデオデバイスに接続します。RJ-45/DB-25アナログ/デジタルビデオアダプタを使用して必要な接続を実現することもできます。

注- このポートは、インストールまたは保守手順時に一時的に使用するためのもので、最大ケーブル長制限は6mです。



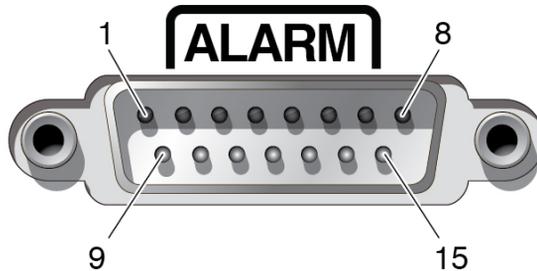
| ピン | 信号の説明            | ピン | 信号の説明            |
|----|------------------|----|------------------|
| 1  | 赤ビデオ             | 9  | +5V              |
| 2  | 緑ビデオ             | 10 | 同期アース            |
| 3  | 青ビデオ             | 11 | モニターID-ビット0(アース) |
| 4  | モニターID-ビット2(アース) | 12 | VGA 12C シリアルデータ  |
| 5  | アース              | 13 | 水平同期             |
| 6  | 赤アース             | 14 | 垂直同期             |
| 7  | 緑アース             | 15 | VGA 12C シリアルクロック |
| 8  | 青アース             |    |                  |

## 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント(設置)」
- 92 ページの「SER MGT ポート」
- 93 ページの「NET MGT ポート」
- 94 ページの「ギガビット Ethernet ポート」
- 96 ページの「USB ポート」
- 98 ページの「アラームポート」

## アラームポート

背面パネルのアラームポートには、Telco ドライアラームリレーケーブルを接続できる標準 DB-15 コネクタが使用されています。電気通信環境では、このポートを使用して中央局の警報システムに接続します。アラームポートのリレー接点の電気定格は、最大 100 V、0.2 A です。



| ピン | 信号の説明      | ピン      | 信号の説明      |
|----|------------|---------|------------|
| 1  | RESET0+    | 9       | ALARM1_NC  |
| 2  | RESET0-    | 10      | ALARM1_COM |
| 3  | RESET1+    | 11      | ALARM2_NO  |
| 4  | RESET1-    | 12      | ALARM2_NC  |
| 5  | ALARM0_NO  | 13      | ALARM2_COM |
| 6  | ALARM0_NC  | 14      | ALARM3_NO  |
| 7  | ALARM0_COM | 15      | ALARM3_COM |
| 8  | ALARM1_NO  | CHASSIS | FRAME GND  |

各アラームは、フロントパネルのアラーム LED に対応しています。

- ALARM0 とクリティカル LED
- ALARM1 とメジャー LED
- ALARM2 とマイナー LED
- ALARM3 とユーザー LED

### 関連情報

- 88 ページの「使用可能な接続」
- 13 ページの「背面パネルのコンポーネント (設置)」
- 92 ページの「SER MGT ポート」

- 93 ページの「NET MGT ポート」
- 94 ページの「ギガビット Ethernet ポート」
- 96 ページの「USB ポート」
- 96 ページの「ビデオポート」



# サーバーへののはじめての電源投入

---

サーバーの入力電源のタイプに基づいて、次の情報を使用してください。

---

| 手順 |  |
|----|--|
| 1. | 電源の要件を確認します。<br>16 ページの「AC および DC 電源仕様」<br>17 ページの「入力電力の情報」<br>18 ページの「過電流保護の要件」<br>19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」 |
| 2. | AC 電源または DC 電源をサーバーに供給します。<br>101 ページの「AC 電源コードの接続」<br>103 ページの「DC 電源コードの組み立てと DC 電源の供給」                         |
| 3. | はじめてホストに電源を投入します。<br>115 ページの「ホストへののはじめての電源投入」   |

---

## 関連情報

- 7 ページの「サーバーの概要」
- 15 ページの「サーバーと設置場所の仕様の確認」
- 23 ページの「設置の準備」
- 29 ページの「サーバーの 4 ポストラックへの設置」
- 55 ページの「サーバーの 2 ポストラックへの設置」
- 87 ページの「ケーブルの接続」

### ▼ AC 電源コードの接続



---

注意 - 電源ケーブルを電源に接続するとただちに、サーバーがスタンバイモードになり、Oracle ILOM SP が初期化されます。

---



注意-すべてのファン、コンポーネントヒートシンク、エアバッフル、および上部カバーを取り付けないかぎり、サーバーを稼働させないでください。十分な冷却メカニズムがない状態でサーバーを動作させた場合、サーバーコンポーネントに重大な損傷が生じる可能性があります。

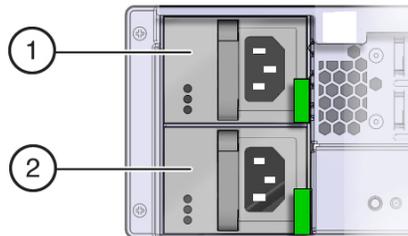
サービスプロセッサは、3.3 Vのスタンバイ電圧で動作します。システムに電源が接続されるとすぐにSPの電源が入り、診断が実行されて、Oracle ILOM ファームウェアが初期化されます。

注-シリアル端末または端末エミュレータを接続していないと、システムメッセージを確認できません。

- 1 SPに接続されていることを確認します。  
90 ページの「SPにケーブルを接続する」を参照してください。

注-AC電源コードを電源に接続するとすぐに、サーバーがスタンバイモードになり、サービスプロセッサが初期化されます。SPに接続することで、初期化処理を表示して操作できます。

- 2 (ACモデルの場合のオプション)シャーシのアース端子をアースに接続します。  
103 ページの「シャーシのアース線を接続する」を参照してください。
- 3 AC電源コードをAC電源(たとえば、電源供給装置)からサーバーの背面に配線します。  
冗長性のために、別個の回路上にある2つの電源接続を使用してください。
- 4 AC電源コードを両方の電源装置に接続します。



| 番号 | 説明     |
|----|--------|
| 1  | 電源装置 1 |

| 番号 | 説明     |
|----|--------|
| 2  | 電源装置 0 |

電力が供給されると、SP の初期化時に OK LED が点滅します。数分後、OK LED がゆっくり点滅して、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。

10 ページの「フロントパネルのコンポーネント (設置)」を参照してください。サーバーはまだ電源が投入されていません。

- 5 サーバーの電源を入れます。  
115 ページの「ホストへのはじめての電源投入」を参照してください。

#### 参考 関連情報

- 103 ページの「シャーシのアース線を接続する」
- 115 ページの「ホストへのはじめての電源投入」

## DC 電源コードの組み立てと DC 電源の供給

| 手順 | 説明                          | リンク                      |
|----|-----------------------------|--------------------------|
| 1. | シャーシをアースに接続します。             | 103 ページの「シャーシのアース線を接続する」 |
| 2. | DC 電源コードを組み立てます。            | 105 ページの「DC 入力コードの組み立て」  |
| 3. | 保護カバーを取り付けます。               | 110 ページの「保護カバーの取り付け」     |
| 4. | DC 電源コードを DC 電源とサーバーに接続します。 | 113 ページの「DC 電源コードの接続」    |

### 関連情報

- 115 ページの「ホストへのはじめての電源投入」

#### ▼ シャーシのアース線を接続する

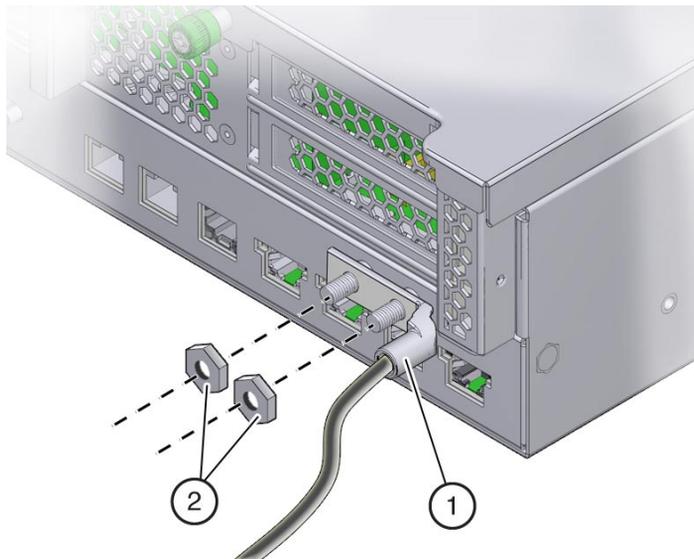
サーバーの出荷用キットには、シャーシのアース線をサーバーの背面に接続するためのアース端子が含まれています。アース線は用意する必要があります。



注意 - DC 電源は確実に接地する必要があります。サーバーシャーシは、電源の接地ピンまたはシャーシのアース端子で接地する必要があります。両方のアースを接続してもかまいません。

この手順は、AC 入力を持つサーバーの場合はオプションです。電源装置およびシャーシのアース線を使用してサーバーを接地することもできます。

- 1 出荷用キットからアース端子と 2 つの M5 ナットを取り出します。
- 2 アース線をアース端子のカシメ爪に挿入し、圧着工具を使用して、カシメ爪でアース線を固定します。
- 3 サーバーの背面に移動して、2 つのアース端子を探します。
- 4 アース端子をシャーシの背面の 2 つのアース端子にはめ合わせます。



| 番号 |                  |
|----|------------------|
| 1  | アース線をアース端子に固定します |
| 2  | M5 ナット           |

- 5 2 つの M5 ナットを使用して、アース端子をアース端子に固定します。

- 6 アース線の逆側の終端を建物のアースに固定します。  
ラックが建物のアースに適切に接地されている場合は、アース線をラックの適切なアースポイントに固定できます。
- 7 DC入力コードを組み立てます。  
105 ページの「DC入力コードの組み立て」を参照してください。

#### 参考 関連情報

- 105 ページの「DC入力コードの組み立て」
- 110 ページの「保護カバーの取り付け」
- 113 ページの「DC電源コードの接続」
- 115 ページの「ホストへのはじめての電源投入」

## ▼ DC入力コードの組み立て

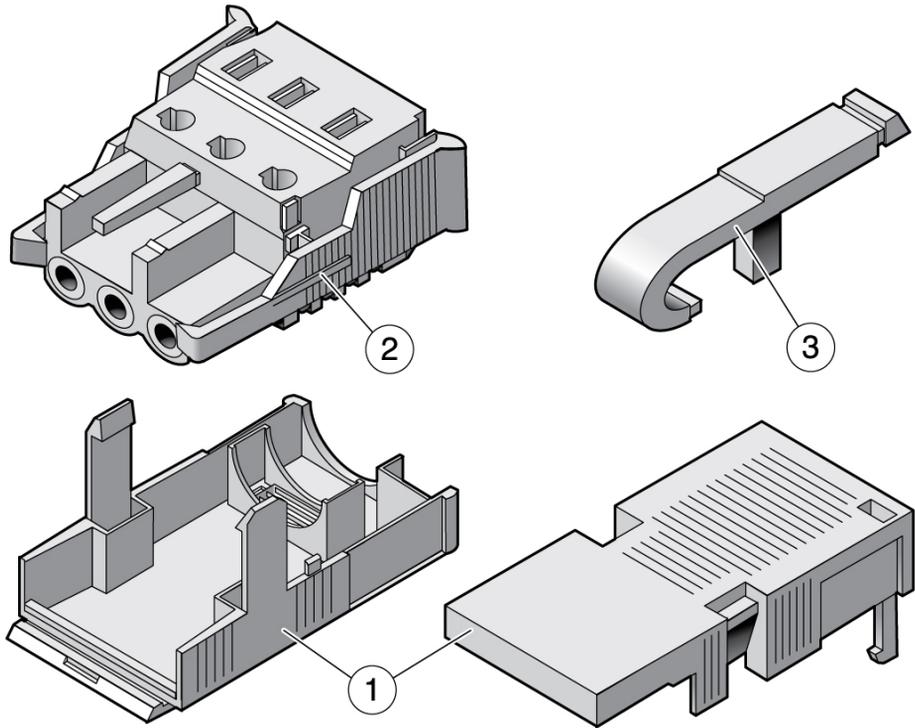
サーバーの各 DC 電源入力に対して 1 本の DC 入力電源ケーブルを組み立てます。

- 1 次の条件を満たしていることを確認します。
  - サーバーの入力電力仕様を満たす DC 電源を設置します。  
16 ページの「AC および DC 電源仕様」を参照してください。
  - サーバーの電源ケーブル仕様を満たす DC 電源ケーブルを用意します。  
19 ページの「DC 電源、電源接続、およびアース要件」を参照してください。
  - DC 入力プラグを DC 入力電源ケーブルに接続します。入力プラグはサーバーの出荷用キットに含まれています。  
23 ページの「出荷キットの内容一覧」を参照してください。
- 2 電源ケーブルが DC 電源にすでに接続されている場合は、フェーズを取り外してケーブルの電流を遮断し、回路遮断器を開くか、DC 電源をオフにします。



注意-DC 電源ケーブルに電流が流れていないことを確認してから、次の手順に進んでください。

- 3 DC入力電源ケーブルの組み立てに使用する部品を確認します。  
 ケーブルごとに、次の図に示されているものが必要となります。これらはサーバーに同梱されている出荷用キットに含まれています。



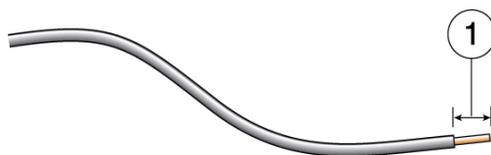
| 番号 | 説明           |
|----|--------------|
| 1  | 保護カバー        |
| 2  | DC入力プラグ      |
| 3  | ケージクランプ操作レバー |

- 4 サーバーへの接続で使用する、DC電源から出ている次の3本のワイヤーを確認します。
- -48/-60 V (負極)
  - シャーシのアース
  - -48/-60 V 帰線 (正極)

注 - DC 電源によっては、-48V/-60V (負極) にはマイナス (-) 記号が付いている場合があります。-48V/-60V 帰線 (正極) にはプラス (+) 記号が付いている場合があります。

5 DC 電源から出ている各ワイヤーの絶縁材を、8 mm (5/16 インチ) はがします。

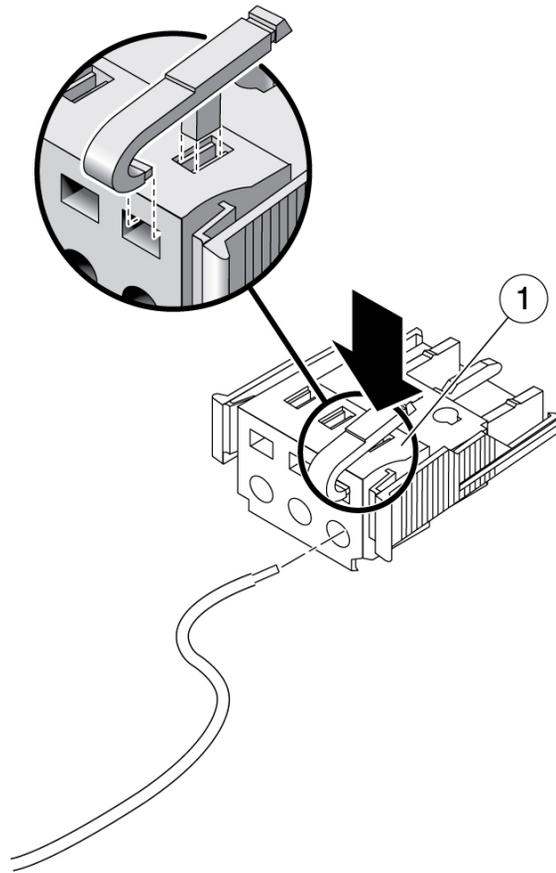
各ワイヤーから、8 mm (5/16 インチ) より長くは、はがさないでください。組み立て完了後に、ワイヤーの絶縁されていない部分が DC コネクタから露出したまま残る可能性があります。



| 番号 | 説明                 |
|----|--------------------|
| 1  | 最大 8 mm (5/16 インチ) |

6 次のいずれかの手順を使用して、DC 入力プラグの該当箇所のケージランプを開きます。

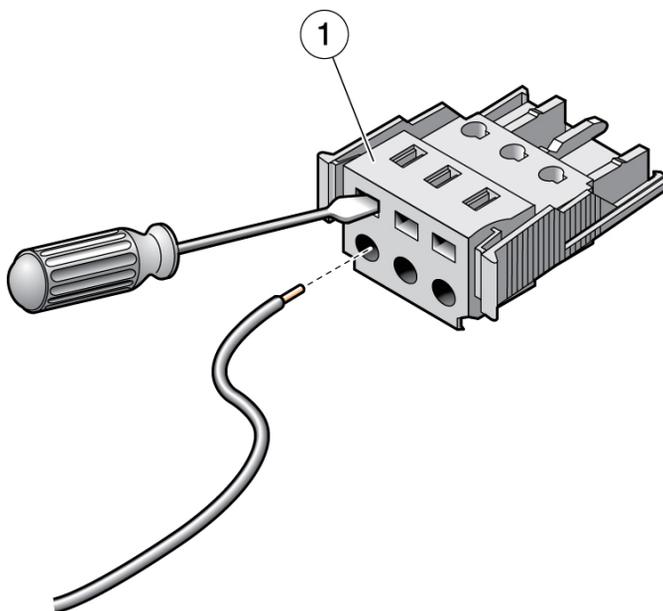
- 最初のワイヤーを差し込む DC 入力プラグの穴のすぐ上の四角い穴に、ケージランプ操作レバーの先端を挿入します。ケージランプ操作レバーを押し下げます。最初の図を参照してください。
- 最初のワイヤーを差し込む DC 入力プラグの穴のすぐ上の四角い穴に、小さなマイナスのねじ回しを挿入します。押し込んでケージランプを開きます。2 番目の図を参照してください。



---

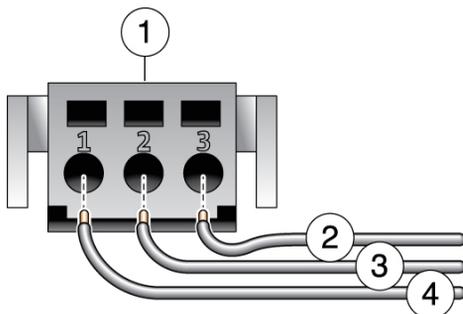
| 番号 | 説明      |
|----|---------|
| 1  | DC入力プラグ |

---



| 番号 | 説明      |
|----|---------|
| 1  | DC入力プラグ |

- 7 該当するワイヤーの露出部分を、DC入力プラグの丸い穴に差し込みます。



| 番号 | 説明                  |
|----|---------------------|
| 1  | コネクタの上部             |
| 2  | -48/-60 V 帰線から      |
| 3  | シャーシのアース (緑色/黄色) から |
| 4  | -48/-60 V から        |

---

注-DC入力プラグからワイヤーを取り外す必要がある場合は、ケージランプ操作レバーまたは小型のねじ回しを押し込んで、DC入力プラグからワイヤーを引き出します。

---

- 8 レバーをリリースするか、ねじ回しを抜いて、ワイヤーをコネクタに固定します。
- 9 ほかの2本のワイヤーについても同じ手順を繰り返し、DC入力電源ケーブルの組み立てを完了します。
- 10 ユニットに必要なDC入力電源ケーブルの本数だけ、この手順を繰り返します。
- 11 保護カバーを取り付けます。  
110ページの「保護カバーの取り付け」を参照してください。

参考 関連情報

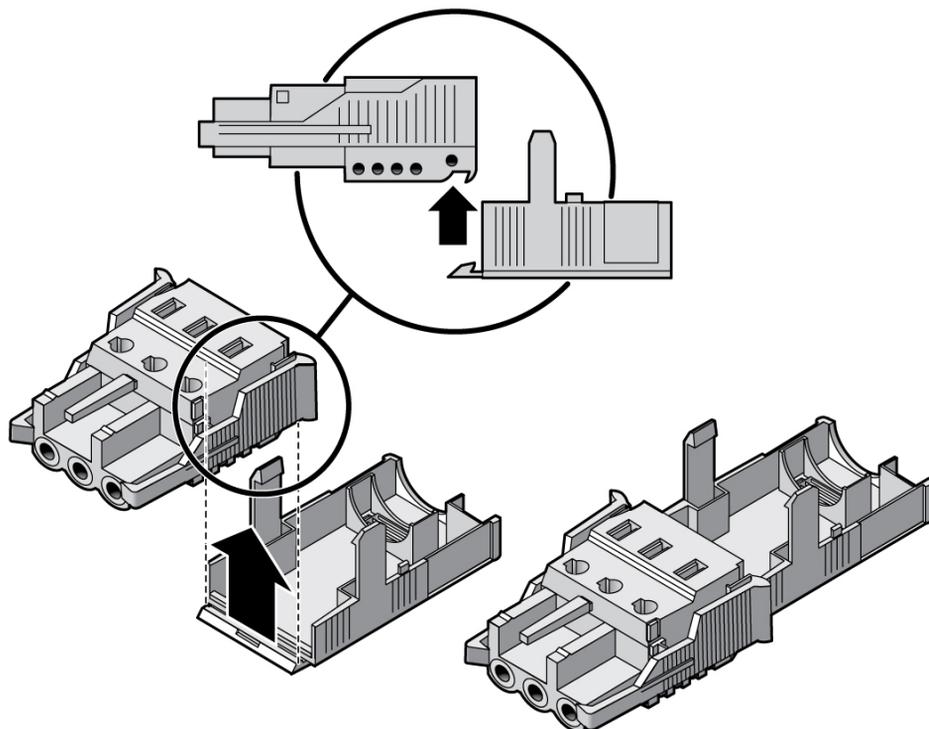
- 103ページの「シャーシのアース線を接続する」
- 110ページの「保護カバーの取り付け」
- 113ページの「DC電源コードの接続」
- 115ページの「ホストへのはじめての電源投入」

## ▼ 保護カバーの取り付け

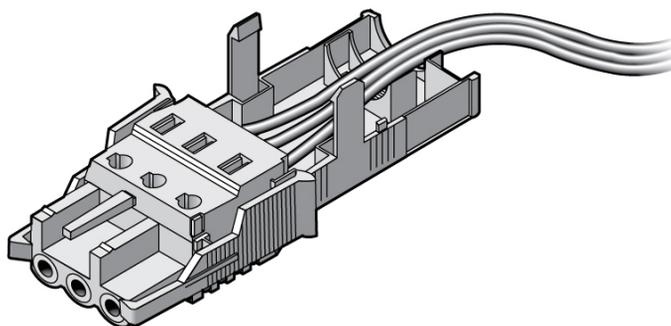
- 1 シャーシのアース線を接続し、DC入力コードを組み立てたことを確認します。  
103ページの「シャーシのアース線を接続する」および105ページの「DC入力コードの組み立て」を参照してください。

- 2 DC入力プラグのくぼみに保護カバーの下部品をカチッという音がるまではめ込みます。

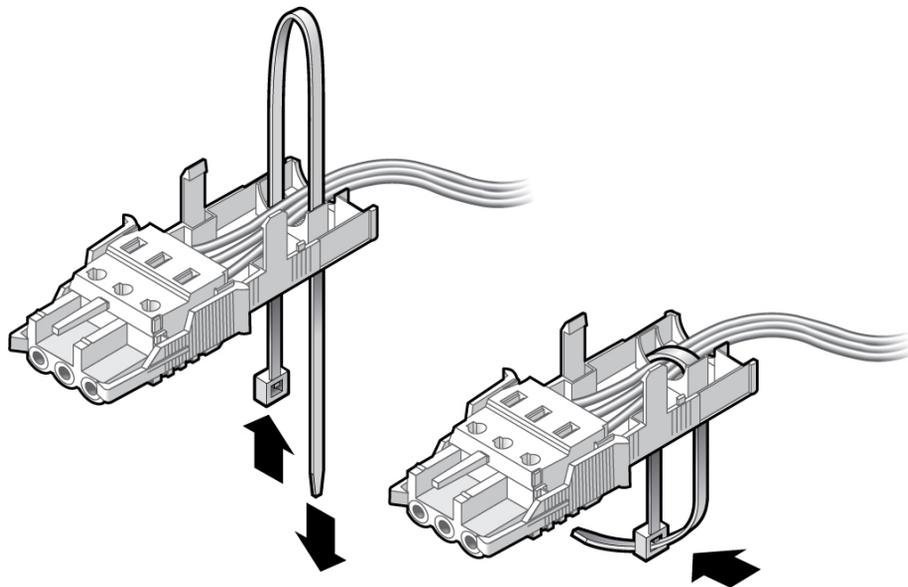
保護カバーがDC入力プラグに完全にはめ込まれたことを確認してください。保護カバーが完全にはめ込まれていないと、正しく組み立てることができません。



- 3 保護カバーの後ろの開口部に、DC電源からの3本のワイヤーを通します。

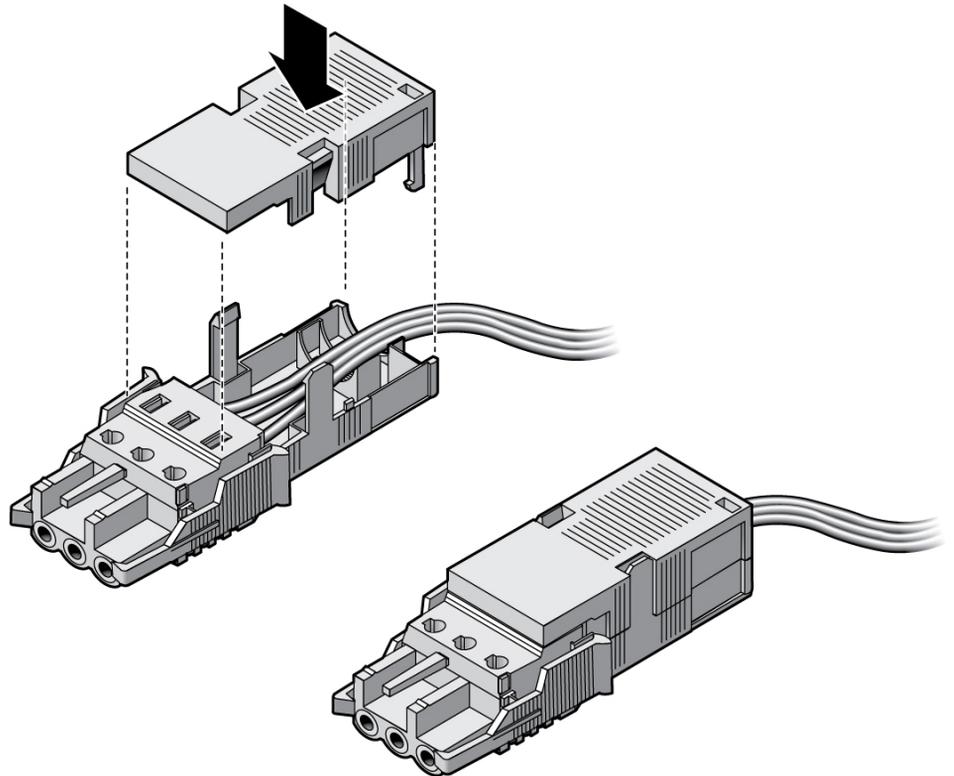


- 4 タイラップを保護カバーの下部品に挿入します。



- 5 タイラップでワイヤーを束ねて、タイラップを保護カバーの下に通します。タイラップを締めて、保護カバーにワイヤーを固定します。

- 6 保護カバーの上部品を被せ、上部品の3つの突起をDC入力プラグの開口部に合わせて押し込みます。  
保護カバーの上部品と下部品がカチッと音を立ててかみ合うまで押し込みます。



- 7 DC電源コードを接続します。  
113ページの「DC電源コードの接続」を参照してください。

参考 関連情報

- 103ページの「シャーシのアース線を接続する」
- 105ページの「DC入力コードの組み立て」
- 113ページの「DC電源コードの接続」
- 115ページの「ホストへのはじめての電源投入」

## ▼ DC電源コードの接続

- 1 電源からサーバーまで電源コードを配線して準備します。

---

注- 電源ケーブルで電源装置と外部電源を接続すると、ただちにサーバーがスタンバイモードになり、Oracle ILOM SP が初期化されます。電源を入れる前に端末または端末エミュレータが SER MGT ポートに接続されていない場合、60 秒でシステムメッセージが表示されなくなる場合があります。

---

---

注- 両方の電源装置に電力が供給されていない場合は非冗長状態となるため、Oracle ILOM は障害を通知します。

---

- 2 DC 電源が供給されておらず、入力ケーブルに電流が流れていないことを確認します。
- 



注意- DC 電源ケーブルに電流が流れていないことを確認してから、次の手順に進んでください。

---

- 3 電源コードを電源からサーバーの背面まで配線し、ケーブルを固定します。
  - 4 シャーシのアース線を設備のアースに接続し、適切に接続されたことを確認します。  
[103 ページの「シャーシのアース線を接続する」](#)を参照してください。
  - 5 -48V/-60V 帰線および電源のワイヤーを回路切断器またはフューズパネルに接続します (それらがまだ接続されていない場合)。
- 



注意- この時点では、回路切断器をオンにしないでください。

---

- 6 各電源ケーブルをサーバーの電源装置ユニットに差し込んで電源ワイヤー類を接続します。
- 7 電力を供給する準備ができたなら、入力ケーブルに電流を流して、各電源装置で緑色の DC 入力 LED が点灯することを確認します。

電力がただちに SP に供給され、フロントパネルの SP OK/障害 LED が点滅します ( [10 ページの「フロントパネルのコンポーネント \(設置\)」](#)を参照)。SP によって診断が行われ、Oracle ILOM ファームウェアが初期化されます。

Oracle ILOM ファームウェアが初期化されると、SP OK/障害 LED は点灯した状態になり、主電源 OK/障害 LED がゆっくり点滅して、端末デバイスに SP ログインプロンプトが表示されます。ただし、ホストはまだ初期化されておらず、電源も入っていません。

- 8 サーバーの電源を入れます。  
115 ページの「[ホストへのはじめての電源投入](#)」を参照してください。

#### 参考 関連情報

- 103 ページの「[シャーシのアース線を接続する](#)」
- 105 ページの「[DC 入力コードの組み立て](#)」
- 110 ページの「[保護カバーの取り付け](#)」
- 115 ページの「[ホストへのはじめての電源投入](#)」

## ▼ ホストへのはじめての電源投入

この手順では、Oracle ILOM CLI を使用して SER MGT ポートからホストに対してアクセスおよび電源投入を行う方法を説明しています。

- 1 これらの条件が満たされていることを確認します。
  - a. 端末デバイスが SER MGT ポートに接続されている。[90 ページの「SP にケーブルを接続する」](#)を参照してください。
  - b. サーバーに電力が供給されている。[101 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)を参照してください
- 2 端末デバイスで **Enter** キーを押して、端末デバイスと **Oracle ILOM SP** との接続を確立します。

- 3 端末デバイスで、パスワード **changeme** を使用して、**root** として **SP** にログインします。

```
ORACLESP-xxxxxxxxxx login: root
Password: changeme
:->
```

しばらくすると、Oracle ILOM プロンプト (->) が表示されます。この時点で、Oracle ILOM インタフェースを使用して実行できるコマンドは多数あります。

パスワードの変更方法、SP ネットワークパラメータの設定方法など、その他の SP に関する情報は『サーバー管理』で参照できます。

- 4 サーバーの電源を入れ、ホスト出力をシリアル端末デバイスに表示するようにリダイレクトします。

```
-> start /System
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
Starting /System
-> start /HOST/console
```

```
Are you sure you want to start /HOST/CONSOLE (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
. . .
```

ホストコンソールを起動したあと、20分ほどでサーバーの初期化が完了し、サーバーがブートされます。

サーバーをブートすると、GRUBメニューが表示され、インストール済みのOSをインストールするためのプロンプトが表示されます。

```
GNU GRUB Version 0.97 (607K lower / 2087168K)
```

```
s11_2011.11_a - Serial Port (ttya)
```

```
s11_2011.11_a - Graphics Adapter
```

「GRUB」メニューで、表示の出力先を引き続きシリアルポートにするかどうか、または表示の出力先をビデオポートに接続されたデバイスにするかどうかを選択できます。

---

注-デフォルトでは、システムはシリアルポートに出力を表示します。「GRUB」メニューでオプションを選択しないと、10秒後に「GRUB」メニューが使用できなくなり、システムは出力先をシリアルポートにしたまま処理を続行します。

---

- 5 サーバーでインストール済みのOSを構成するか、別のOSをインストールして構成します。

OracleのNetra Server X3-2(旧Sun Netra X4270 M3サーバー)にOSをインストールするには、『サーバーOSインストール』を参照してください。

## 参考 関連情報

- 101 ページの「AC電源コードの接続」
- 103 ページの「DC電源コードの組み立てとDC電源の供給」

# 用語集

---

## A

|          |  |
|----------|--|
| ACPI     | Advanced Configuration and Power Interface。  |
| ANSI SIS | American National Standards Institute Status Indicator Standard (米国規格協会ステータスインジケータ規格)。 |
| ASF      | Alert Standard Format (警告標準フォーマット) (Netra 製品のみ)。                                       |
| ASR      | Automatic System Recovery (自動システム回復)。  |
| AWG      | American Wire Gauge。   |

## B

|                            |  |
|----------------------------|--|
| BAT                        | Basic Assurance Test。  |
| BIOS                       | Basic Input Output System (基本入出力システム)。   |
| blade<br>(ブレード)            | サーバーモジュールおよびストレージモジュールの総称の用語。 <a href="#">server module (サーバーモジュール)</a> および <a href="#">storage module (ストレージモジュール)</a> を参照してください。 |
| blade server<br>(ブレードサーバー) | サーバーモジュール。 <a href="#">server module (サーバーモジュール)</a> を参照してください。  |
| BMC                        | Baseboard Management Controller。   |
| BOB                        | Memory Buffer On Board (オンボードのメモリーバッファー)。  |

## C

|                   |  |
|-------------------|--|
| chassis<br>(シャーシ) | サーバーの場合は、サーバーの格納装置を指します。サーバーモジュールの場合は、モジュラーシステムの格納装置を指します。 |
|-------------------|--|

|                        |  |
|------------------------|--|
| <b>CMA</b>             | ケーブル管理アーム。   |
| <b>CMM</b>             | シャーシ監視モジュール。CMM はモジュラーシステム内のサービスプロセッサです。Oracle ILOM は CMM 上で動作して、モジュラーシステムシャーシ内のコンポーネントの電源管理 (LOM) を提供します。 <a href="#">Modular system (モジュラーシステム)</a> および <a href="#">Oracle ILOM</a> を参照してください。 |
| <b>CMM Oracle ILOM</b> | CMM 上で動作する Oracle ILOM。 <a href="#">Oracle ILOM</a> を参照してください。   |

## D

|  |   |
|--|---|
| <b>DHCP</b>  | 動的ホスト構成プロトコル。   |
| <b>disk module</b><br>(ディスクモジュール)<br>または <b>disk blade</b><br>(ディスクブレード) | ストレージモジュールの別名。 <a href="#">storage module (ストレージモジュール)</a> を参照してください。 |
| <b>DTE</b>   | Data Terminal Equipment (データ端末装置)。                                    |

## E

|            |  |
|------------|--|
| <b>ECC</b> | Error-correcting code (誤り訂正符号)。            |
| <b>EIA</b> | Electronics Industries Alliance (米国電子工業会)。 |
| <b>ESD</b> | Electrostatic Discharge (静電放電)。            |

## F

|            |   |
|------------|---|
| <b>FEM</b> | Fabric Expansion Module (ファブリック拡張モジュール)。FEM により、サーバーモジュールは特定の NEM によって提供される 10GbE 接続を使用できます。 <a href="#">NEM</a> を参照してください。 |
| <b>FRU</b> | Field-Replaceable Unit (現場交換可能ユニット)。  |

## G

|            |                   |
|------------|-------------------|
| <b>GPT</b> | GUID パーティションテーブル。 |
|------------|-------------------|

---

**GRUB** GRand Unified Bootloader。1台のコンピュータで複数のOSのブートをサポートするGNU実装。

## H

**HBA** Host Bus Adapter (ホストバスアダプタ)。

**HMP** Hardware Management Pack。

**host**  
(ホスト) Oracle Solaris OS およびその他のアプリケーションを実行する、CPU およびその他のハードウェアを備えたサーバーまたはサーバーモジュールの部分。ホストという用語は、プライマリコンピュータとSPを区別するために使用されます。[SP](#)を参照してください。

## I

**ICMP** Internet Control Message Protocol (インターネット制御メッセージプロトコル)。

**IDE** Integrated Development Environment (統合開発環境)。

**ID PROM** サーバーまたはサーバーモジュールのシステム情報が格納されたチップ。

**IP** Internet Protocol (インターネットプロトコル)。

## K

**KVM** キーボード、ビデオ、マウス。複数のコンピュータで1つのキーボード、1つのディスプレイ、1つのマウスを共有するには、スイッチの使い方を参照してください。

## L

**LwA** 音響パワーレベル。

**M**

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| <b>MAC</b>                           | Machine Access Code (マシンアクセスコード)。  |
| <b>MAC アドレス</b>                      | メディアアクセス制御アドレス。  |
| <b>MBR</b>                           | マスターブートレコード。   |
| <b>Modular system</b><br>(モジュラーシステム) | サーバーモジュール、ストレージモジュール、NEM、および PCIEM を収納するラックマウント可能シャーシ。モジュラーシステムは CMM を介して Oracle ILOM を提供しません。 |
| <b>MSGID</b>                         | メッセージ識別子。  |

**N**

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| <b>name space</b><br>(名前空間) | 最上位の Oracle ILOM CMM ターゲット。  |
| <b>NEBS</b>                 | Network Equipment-Building System (ネットワーク機器構築システム) (Netra 製品のみ)。                                       |
| <b>NEM</b>                  | Network Express Module。NEM は、10/100/1000 Mbps Ethernet、10GbE Ethernet ポート、および SAS 接続をストレージモジュールに提供します。 |
| <b>NET MGT</b>              | ネットワーク管理ポート。サーバー SP、サーバーモジュール SP、および CMM 上の Ethernet ポート。  |
| <b>NIC</b>                  | Network Interface Card/Controller (ネットワークインタフェースカードまたはネットワークインタフェースコントローラ)                             |
| <b>NMI</b>                  | マスク不可能割り込み。  |

**O**

|                          |  |
|--------------------------|--|
| <b>OBP</b>               | OpenBoot PROM。   |
| <b>Oracle ILOM</b>       | Oracle Integrated Lights Out Manager。Oracle ILOM ファームウェアは、各種 Oracle システムにインストール済みです。Oracle ILOM を使用すると、ホストシステムの状態に関係なく、Oracle サーバーをリモートから管理できます。 |
| <b>Oracle Solaris OS</b> | Oracle Solaris Operating System (Oracle Solaris オペレーティングシステム)。   |
| <b>OS</b>                | オペレーティングシステム。  |

**OSA** Oracle System Assistant。

## **P**

**PCI** Peripheral Component Interconnect。

**PCI EM** PCIe Express Module。PCI Express の業界標準フォームファクタに基づくモジュールコンポーネントで、ギガビット Ethernet やファイバチャネルなどの I/O 機能を提供します。

**PDB** Power Distribution Board (配電盤)。

**PMR** Physical Media Request (物理メディアリクエスト)。

**POST** Power-On Self-Test (電源投入時自己診断)。

**PROM** Programmable Read-Only Memory (プログラム可能な読み取り専用メモリー)。

**PSH** Predictive Self Healing (予測的自己修復)。

**PXE** Pre-boot eXecution environment。

## **Q**

**QSFP** Quad Small Form-factor Pluggable (クワッドスモールフォームファクタプラグブル)。

## **R**

**REM** RAID 拡張モジュール。HBA とも呼びます [HBA](#) を参照してください。ドライブへの RAID ボリュームの作成をサポートします。

**RHEL** Red Hat Enterprise Linux。

## **S**

**SAN** ストレージエリアネットワーク (Storage Area Network)。

**SAS** Serial Attached SCSI。

**SATA** Serial Advanced Technology Attachment (シリアル ATA)。

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| <b>SCC</b>                            | System Configuration Chip (システム構成チップ)。  |
| <b>SER MGT</b>                        | Serial Management Port (シリアル管理ポート)。サーバー SP、サーバーモジュール SP、および CMM 上のシリアルポート。  |
| <b>server module</b><br>(サーバーモジュール)   | モジュラーシステムで主要な演算リソース (CPU とメモリー) を提供するモジュラーコンポーネント。サーバーモジュールには、オンボードストレージおよび REM と FEM を保持するコネクタがある場合もあります。  |
| <b>SLES</b>                           | SUSE Linux Enterprise Server。   |
| <b>SMART</b>                          | Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (自己監視、自己分析、および自己報告のテクノロジー)。   |
| <b>SNMP</b>                           | Simple Network Management Protocol。   |
| <b>SP</b>                             | Service Processor (サービスプロセッサ)。サーバーまたはサーバーモジュールの SP は、専用の OS を搭載したカードです。SP は Oracle ILOM コマンドを処理し、ホストの電源管理 (LOM) を提供します。 <a href="#">host (ホスト)</a> を参照してください。 |
| <b>SRU</b>                            | Support Repository Update。Oracle Solaris OS の更新に使用されます。   |
| <b>SSD</b>                            | Solid-State Drive (半導体ドライブ)。  |
| <b>SSH</b>                            | Secure Shell。   |
| <b>storage module</b><br>(ストレージモジュール) | サーバーモジュールに演算ストレージを提供するモジュラーコンポーネント。   |

## T

|            |   |
|------------|---|
| <b>TIA</b> | Telecommunications Industry Association (米国通信工業会) (Netra 製品のみ)。 |
| <b>Tma</b> | Maximum Ambient Temperature (最大周囲温度)。                           |
| <b>TPM</b> | Trusted Platform Module (Windows 2008 の機能)。                     |

## U

|             |   |
|-------------|---|
| <b>UCP</b>  | Universal Connector Port (ユニバーサルコネクタポート)。 |
| <b>UEFI</b> | Unified Extensible Firmware Interface。    |
| <b>UI</b>   | User Interface (ユーザーインタフェース)。             |
| <b>UL</b>   | Underwriters Laboratory Inc.              |

**U.S. NEC** United States National Electrical Code (米国電気工事基準)。

**UTC** Coordinated Universal Time (協定世界時)。

**UUID** Universal Unique Identifier (汎用一意識別子)。

## **V**

**VM** Virtual Machine (仮想マシン)。

## **W**

**WDS** Windows 展開サービス。

**WIM** Windows Imaging Format。

**WWN** World Wide Name。SAS ターゲットを一意に特定する番号。



# 索引

---

## 数字・記号

### 2ポスト

19インチスライドマウント

取り付け, 66

ラックキット, 64

19インチハードマウント

取り付け, 56

ねじキット, 57

23インチハードマウント

取り付け, 78

ねじキット, 77

### 4ポスト

19インチスライドマウント

取り付け, 35

ラックキット, 35

19インチハードマウント

取り付け, 32-35

ラックキット, 30

600 mm ハードマウント

取り付け, 46

ラックキット, 45

6ドライブモデル, 10

8ドライブモデル, 10

## A

AC電源,仕様, 16

AC電源装置, 101-103

コードの接続, 101-103

## C

CPU, 8

## D

### DC

帰線, 19

電源, 19

電源仕様, 16

入力処理仕様, 16

入力プラグ, 105-110

ワイヤーの絶縁部をはがす, 105-110

### DC電源

供給, 103

注意事項, 19

### DC電源コード

組み立て, 103, 105-110

接続, 113-115

DC電源コードの組み立て, 103, 105-110

DCワイヤーの絶縁部をはがす, 105-110

## E

### ESD

注意, 25

マット, 25

Ethernetポート, 8, 13, 88

ケーブル接続, 91

## H

/HOST/console の開始, 115-116

## I

IP アドレス, 88

## L

LED, 8, 10

## N

NET MGT ポート, 13, 88, 90-91, 93

NET ポート, 13, 88, 94

## P

PCIe スロット, 8, 13

## S

SAS ドライブスロット, 10

SER MGT ポート, 13, 88, 90-91, 92

SP, 8

LED, 10

ケーブル接続, 90-91

初期化, 101-103

接続, 88

/System の開始, 115-116

## T

Telco アラーム LED, 10

## U

U.S. NEC, 18

USB ポート, 8, 10, 13, 96

## V

VGA ビデオポート, 13, 88, 90-91

## W

Wago コネクタ, 19, 105-110

## Z

ZFS ポート (未対応), 13

## あ

アース, 27

ストラップ, 25

要件, 19

アース線、接続, 103-105

アクセシビリティ, 6

アクセスが制限された場所, 19

アラーム

コネクタ, 8

ポート, 13, 98

## い

インジケータ, 8

## お

奥行き, 15

オプションコンポーネント, 26

音響ノイズの放出, 21

温度

周囲, 20

仕様, 20

## か

## 概要

- サーバー, 7-14
  - 設置タスク, 7
- 回路の過負荷, 27
- カテゴリ 6 ケーブル, 91
- 過電流保護の要件, 18
- 雷に関する要件, 88
- 環境要件, 20
- 管理ケーブル、接続, 87
- 関連ドキュメント, 5

## き

- 機能、サーバー, 8

## く

- クリティカルアラーム LED, 10, 98

## け

- ケージランプ, 105-110
- ケーブル
  - カテゴリ 6, 91
  - 接続, 87-99
- ケーブル接続
  - Ethernet ポート, 91
  - SP, 90-91

## こ

- 光学式メディア, 8
- コネクタ、アラーム, 8
- コンポーネント
  - オプション, 26
  - フロントパネル, 10
  - リアパネル, 13

## さ

- サージプロテクタ, 17
  - サーバー
    - DC 電源の供給, 113-115
    - 奥行, 15
    - 概要, 7-14
    - 機能, 8
    - 重量, 15
    - 設置場所とサーバーの仕様の確認, 15-22
    - 高さ, 15
    - 電源投入, 101-116
    - 幅, 15
    - ホストのブート, 115-116
    - 持ち上げる場合の注意, 24
    - モデル, 10
  - サーバーと設置場所の仕様の確認, 15-22
  - サポート, 6
  - サポートされる
    - Ethernet ポート, 8
    - PCIe スロット, 8
    - SP, 8
    - USB 2.0 スロット, 8
    - アラームコネクタ, 8
    - 光学式メディア, 8
    - ストレージ, 8
    - 電源, 8
    - 冷却ファン, 8
  - サポートされるストレージ, 8
- 
- し
  - 識別、ポート, 92
  - システム OK LED, 10, 13
  - 湿度仕様, 20
  - シャーシ接地ポスト, 13
  - 周囲温度, 20
  - 周波数仕様, 16
  - 重量, 15
  - 出荷キットの内容一覧, 23
  - 準備
    - 設置の
      - サーバー, 23-28
  - 仕様
    - DC 入力処理, 16

仕様 (続き)

- 温度, 20
  - 高度, 20
  - 湿度, 20
  - 周波数, 16
  - 設置場所, 15–22
  - 電圧, 16
  - 電源, 16
  - 入力電流, 16
  - 物理, 15
- 使用可能な接続, 88
- 状態インジケータ
- フロントパネル, 10
  - リアパネル, 13
- シリアル接続, 88

す

- スイッチ, 8
- スペース

  - 通気, 21
  - 保守用, 16

せ

- 絶縁された電源, 17
- 絶縁定格, 19
- 接続

  - AC 電源コード, 101–103
  - DC 電源コード, 113–115
  - ケーブル, 87–99
  - シャーシのアース線, 103–105

- 接続、使用可能, 88
- 設置

  - 準備, 23–28
  - タスクの概要, 7
  - ツール, 25

- 設置場所の仕様, 15–22
- 接地ポスト, 13, 19, 103–105
- 接地用ポスト, 13

そ

- 相対湿度, 20
- 装置の搭載, 27
- 装置の配置, 27

た

- タイトルバー, 24
- 高さ, 15
- タスクの概要、設置, 7
- 端末デバイス, 25

ち

- 注意事項

  - DC 電源, 19
  - ラック, 27

- 注意、設置

  - ESD, 25
  - 取り扱い, 24

つ

- 通気のスペース, 21
- ツール, 設置, 25

て

- データケーブル, 91–92

  - 接続, 87

- デフォルトの Oracle ILOM の root のパスワード, 115–116
- 電圧, 仕様, 16
- 電気工事基準, 18
- 電源, 8, 13

  - LED, 10
  - 仕様, 16

- 電源、DC, 19
- 電源投入

  - サーバー, 101–116
  - ホスト, 115–116

電源ボタン,位置, 10

電流, 18

電力、入力, 17

電力の供給

AC サーバー, 101-103

DC サーバー, 103

と

導体材料, 19

ドキュメント、関連, 5

ドライ接点ユーザーアラーム, 8

ドライブスロット, 10

取り扱い上の注意, 24

取り付け,保護カバー, 110-113

な

内容一覧、出荷キット, 23

に

入力電流仕様, 16

入力電力, 17

ね

ねじ回し, 25

の

ノイズの放出、音響, 21

は

パスワード,デフォルトの Oracle ILOM の  
root, 115-116

幅, 15

ひ

ビデオポート、VGA, 96

ピン配列

NET MGT ポート, 93

NET ポート, 94

SER MGT ポート, 92

USB ポート, 96

アラームポート, 98

ビデオポート, 96

ふ

ファン, 8

物理仕様, 15

フロントパネル,コンポーネント, 10

分岐回路, 19

ほ

放出、音響, 21

ポート

NET 0-3, 94

NET MGT, 93

SER MGT, 92

USB, 96

アラーム, 98

位置, 13

識別, 92

ビデオ, 96

保護カバー, 105-110

取り付け, 110-113

保守,アクセス, 16

保守要求 LED, 10, 13

ホスト,はじめての電源投入, 115-116

ま

マイナーアラーム LED, 10, 98

め

メジャーアラーム LED, 10, 98  
メディア、光学式, 8  
メモリー, 8

も

持ち上げる場合の注意, 24  
モデル、サーバー, 10

ゆ

ユーザーアラーム LED, 10, 98

よ

要件

Ethernet ケーブル, 91  
アース, 19  
過電流保護, 18  
雷, 88  
環境, 20  
ケーブル接続, 88  
高度, 20  
通気のスペース, 21  
ツール, 25

ら

ラック

固定, 28  
注意事項, 27  
ラックの固定, 28  
ラックマウント作業

2ポスト

19 インチスライドマウント, 64  
19 インチハードマウント, 56  
23 インチハードマウント, 78-85

4ポスト

19 インチスライドマウント, 37-44  
600 mm ハードマウント, 45

り

リアパネル  
アラーム ポート, 13  
コンポーネント, 13  
リストストラップ, 25

れ

冷却, 8

ろ

ロケータ LED  
ボタン, 10, 13